

## 法政大學講義録

山脇, 貞夫 / 杉本, 貞治郎 / 水野, 錬太郎 / 吾孫子, 勝 /  
岡, 八 / 松浦, 鎮次郎

---

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

16

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

52

(発行年 / Year)

1904-07-03



（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可）  
（每月十四日三五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）

明治三十七年七月三日發行

特別法ノ十六

# 法政大學講義錄

第八拾五號



法政大學發行

特別法第十六號目次

市制町村制	(至九七五)	法學士 松浦鎮次郎
競賣	法(至一三〇)	法學士 吾孫子勝
意匠	法(至一八)	法學士 杉本貞治郎
著作權	法(自九七至一〇六)	法學博士 水野鍊太郎
公證人規則	(至六〇五)	法學士 山脇貞夫
執達吏規則	(至四九)	法學士 岡八

雜報

○同縣内ノ甲市ニ於テ縣會議員ノ被選舉資格ヲ有スル者ノ乙市ニ於ケル被選舉資格○競賣ニ因リテ裁判所カ受領シタル金銭ニ對スル請求權○催告ノ委任ト手形金額請求權

090  
1903  
5-16

ニ其代理者ヲ補助シ又ニ其諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述スルモノトス。市町村ノ名譽職吏員ハ別段ノ規定アル場合ノ外職務取扱ハ爲スニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得向キ名譽職町村長及町村行政事務ノ一部ヲ分掌スル助役ハ勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得又委員及區長ニハ市町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得實費辨償額報酬額書記料ハ市町村會ニ於テ之ヲ議決シ市長市助役有給町村長有給助役其他市町村人有給吏員及使丁ノ給料額ハ市町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム市長ノ給料額ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要シ若シ之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス市助役ノ給料額ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要シ若シ之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス町村長及助役ノ給料額ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要シ若シ之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス又市長市助役其他市ノ有給吏員ノ給料額ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得其他市町村ニ於テハ市町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退職料ヲ設クルコトヲ得

市制町村制 自治體タル市町村 市町村ノ機關

而シテ退隱料ヲ受クル者ニシテ官吏トナリ又ハ府縣郡市町村及公共組合公共組合トハ吾人本論ヲ始ニ述ベタル被養ハ公共團體ト同意義ナリノ職務ニ就キ給料ヲ受クルニ至リタルトキハ其間ハ退隱料ノ支給ヲ停止シ又其者ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得タル場合ニ於テ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ノ支給ヲ廢止スルモノトス有給吏員ノ給料退隱料其他吏員ノ實費辨償報酬書記料ノ給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ市ニ在テハ府縣參事會之ヲ裁決シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得町村ニ在テハ郡參事會之ヲ裁決シ其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得市制四九乃至八〇町村制五二乃至八〇地方學事通則六小學校令六二小學校令施行規則第七章參照

第六節 市町村ノ行政

市町村ハ前已ニ述ヘタルカ如ク國家ノ事務タル一般ノ地方公共事務ヲ處理スル目的トスルモノナリ所謂地方公共事務ノ何タルカハ法ニ於テモ明ニ之ヲ

規定セルモノナシト雖モ其主トシテ市町村住民ノ利益ニ關スルモノナラサルヘカラサルハ明ナリ凡ソ如何ナル國家事務ト雖モ嚴密ニ之ヲ言ハハ其國家全般ノ利益ニ關係ヲ有スルト同時ニ亦國內各市町村住民ノ利益ニ多少ノ關係ヲ有セサルモノ無カルヘキモ其主トシテ市町村住民ノ利益ニ關スルモノヲ地方公共事務ト稱シ以テ主トシテ國家全般ノ利益ニ關スル所ノ所謂國ノ事務ト區別スルノミ而シテ如何ナル政務カ主トシテ市町村住民ノ利益ニ關スル事務即チ地方公共事務ト看做サルルヤニ至テハ人ノ思想ノ變遷ニ伴ヒ時代ニ依リテモ異ナリ一概ニ之ヲ論スルヲ得スト雖モ今日ノ思想ニ於テハ外交軍事財政司法及國ノ警察ノ如キ事務ハ國家全般ノ利害ニ關スルコト大ナルカ故ニ之ヲ地方公共事務ト看做サス又地方警察ノ如キハ國ニ依リテハ之ヲ地方公共事務トナスモノアリト雖モ我市町村制ニ於テハ之ヲ地方公共事務ト認メテ故ニ結局市町村ノ地方公共事務トハ營造物ヲ設立スルカ如キ衛生勸業植牧等ノ施設ヲナスカ如キ特ニ市町村住民ノ精神上身體上並ニ經濟上ノ利益ヲ進轉スルヲ目的トスル事務ヲ謂フモノノ如シ然ルニ此處ニ注意スベキハ我現行法規ニ於テ

ハ教育事業ヲ以テ所謂地方公共事務ノ中ニ屬セザルモノトナセザルコト是ナリ  
 普通ノ思想ヨリスレハ教育事業殊ニ小學教育ノ如キハ主トシテ市町村住民ノ  
 利益ニ關スルモノトイフヲ得ルノミナラス實際小學教育ノ如キハ市町村ニ於  
 テ經營セル事業中寧ロ主要ナル部分ヲ占ムルノ狀態ニシテ且之ニ關スル法規  
 ニ至ラモ果シテ教育事業ヲ以テ地方公共事務ニ屬スルモノトナセザルヤ  
 否ヤニ關シテハ明確ノ規定ヲ缺キ一見スレハ却テ之ヲ地方公共事務中ニ屬セ  
 シ居ルカ如ク考ヘラザル點スラ無キニ非ザルカ故ニ吾人カ上ノ如ク論斷ス  
 ルトキハ人或ハ之ニ對シテ大ニ疑獄ヲ抱クモノアルヘシ然レトモ吾人ハ現行  
 法規ノ解釋上必ス如斯ク論斷セザルヘカラサルヲ信スルナリ以下少シク之ヲ  
 述ヘン我市制町村制ハ市町村ハ官ノ監督ヲ受ケテ市町村ノ公共事務ヲ處理ス  
 ルモノナルコトヲ規定スレトモ其市町村公共事務ノ何モノカハ法文ニ於テ之  
 ヲ説明セザルカ故ニ市制町村制ノ條文ニ依リテ直ニ教育事業カ地方公共事務  
 ニ屬セザルコトヲ斷言スルヲ得ス然ルニ市制町村制ノ有權ノ註釋書タル市制  
 町村制理由ニ於テハ市町村ハ其住民ヲシテ市町村ノ爲ニ義務ヲ盡サシムルハ

權利ナカルヘカラスシテ此權利ナキトキハ共同ノ目的ヲ達スルコト能ハザル  
 ハ上已ニ之ヲ論述セリ其義務ノ廣狹ハ市町村事業ノ範圍ニ從ハサルヘカラス  
 其事業ハ全國ノ公益ノ爲ニスルモノアリ或ハ一市町村局部ノ公益ヨリ生スル  
 モノアリ其全國ノ公益ニ出ザルモノハ軍事警察教育等ノ類ニシテ是皆別ニ規  
 定スヘキモノトス其局部ノ公益ヨリ生スルモノ即チ共同事務ハ各地方ノ情況  
 ニ從テ異同アレハ茲ニ枚舉スルニ暇アラスト難モ農業經濟交通事務衛生事務  
 等ノ如キハ其最重要ナルモノトス之ヲ要スルニ一市町村ノ公益上ニ於テ必要  
 ナル事項ハ盡ク共同事務ニ屬スヘキナリトイヒテ明ニ教育事業カ市町村ノ共  
 同事務ニ屬セザルコトヲ斷言セリ而シテ市町村ノ共同事務ハ即チ市町村ノ地  
 方公共事務ニ外ナラサルカ故ニ理由書ノ説ク所ニシテ誤ラズシハ我市制町村  
 制ノ精神ハ教育事務ヲ以テ地方公共事務ト看做サザルニ在リトイハサルヘカ  
 ラス猶此點ハ種種ノ教育法規ニ照シテ之ヲ見レバ一層明ナルモノナリ假リニ  
 教育事業ヲシテ地方公共事務ノ中ニ屬スルモノナラシメハ市町村ニ於テ經營  
 スル所ノ學校ハ市町村ノ營造物ニシテ其學則ハ市町村營造物ノ規則ナリトイ

ハサルヘカラス又學校ニ於テ徵收スル所ノ授業料ハ營造物ノ使用料ニシテ學校ノ事務ヲ掌リ若シ其授業ヲ擔當スル所ノ學校長及教員ハ市町村ノ吏員若シ其被備人タラサルヘカラス果シテ然ラハ市制町村制ノ規定ニ依リ學則ノ新設變更ハ營造物規則ノ新設改正トシテ市ニ在テハ府縣參事會ノ許可ヲ受ケ町村ニ在テハ郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘク授業料ノ新設變更ハ使用料ノ新設増額又ハ變更トシテ市町村何レニ在テモ內務大臣ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘク學校長及教員ハ市町村ノ附屬員ナルカ故ニ市町村限リ之カ任免ヲナスヘキモノナリトイハサルヘカラス然ルニ小學校令施行規則中學校令高等女學校令實業學校令其他ノ教育法規ニ於テハ右ノ諸點ニ付キ市制町村制ノ規定ニ拘ラス學則ニ關シテハ文部大臣若ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケヘキコトヲ規定シ授業料ニ關シテモ亦文部大臣若ハ府縣知事ニ於テ之ヲ認可スヘキコトヲ規定メ又學校長及教員等ニ關シテハ官吏ニ準シ之ヲ委任待遇及判任待遇ニ分テ委任待遇ノ者ノ任免ハ內閣總理大臣ニ於テ奏薦宣行シ判任待遇ノ者ノ任免ハ府縣知事ニ於テ專行スヘキコトヲ定メ居レテ吾人ニシテ教育事業ハ地方公共

事務ナリ從テ市町村立學校ハ市町村ノ營造物ナリトノ前提ヲ取ルナラヤ如何ニシテ如斯キ市制町村制ト教育法規トノ矛盾ヲ説明スルコトヲ得ヘキカ或ハ曰ヘン市町村立學校ハ當然市町村ノ營造物ナリ而シテ之ニ關スル教育令ノ規定ハ市制町村制ノ一般ノ規定ト相抵觸セルカ如キモ是レ學校ハ特種ノ營造物ナルカ故ニ教育令ハ之ニ關シテ特種ノ規定ヲ設クルモノタルニ外ナラス此點ニ付テハ市制町村制ノ規定ハ一般法ナリ教育令ノ規定ハ特別法ナリ故ニ雙方相抵觸スル場合ニハ前者ハ後者ニ讓ラサルヘカラサルノミト然レトモ市制町村制ナル法律ノ特例ヲ設クルトイフナラハ法律ヲ以テ之ヲ爲ササルヘカクタルニ教育法規ハ皆勅令若ハ勅令ノ委任ニ依ル省令ヲ以テ規定セラレルヲ奈何セシヤ要スルニ教育法規ノ規定ハ法律ニ抵觸セル無効ノ規定ナリト斷言スルナラハ格別荷モ之ヲ有效ノ規定ト見ントスレバ吾人ノ論スルカ如ク元來教育事業ハ地方公共事務ニ屬スルモノニ非テルカ故ニ學校ハ市町村ノ營造物ニ非ス從テ市制町村制中ノ營造物ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルモノニ非テ從テ事學校等ノコトヲ規定セザル教育法規ハ市制町村制ト何等ノ關係ヲ有スルモノニ

非ストイフノ外市制町村制トシテ調和ヲ圖ルルコト能ハサルナリ以上述フルカ如ク教育事業ハ元來地方公共事務ニ屬スルモノニ非ス從テ學校ハ市町村ノ營造物ニ非サルカ故ニ市町村ハ當然學校ヲ經營シ得ル權能ヲ有スルモノニ非ス今日市町村ハ小學校、中學校、高等女學校、實業學校等ヲ設立シ居レルモ是レ市町村當然ノ權能トシテ自己ノ營造物タル學校ヲ設クルモノニハ非ス教育令ノ特別ノ規定ニ依リ元來國ノ營造物タル學校ヲ設立維持スルノ義務ヲ負ヒ又ハ之カ權能ヲ有スルノミ換言スレハ市町村ハ唯特別ノ規定ニ依リ學校ノ設立維持ノミヲナスモノニシテ學校其物ハ依然トシテ國ノ營造物タルナリ如斯ク學校ハ市町村ノ營造物ニ非タルノミナラス市町村ニ於テ學校ヲ設立維持スルコトモ亦教育令ノ特別ノ規定ニ基クモノナルカ故ニ小學校其他ノ如ク教育令ニ於テ特ニ市町村ヲシテ之ヲ設立維持セシムルコトヲ規定セルモノノ外ハ市町村ハ初ヨリ全然學校ヲ設立維持スルコトヲ得ザルモノナリ例ヘハ中學校又ハ高等女學校類似ノ各種學校ノ如キハ市町村ニ於テ決シテ之ヲ設ク得ヘキモノニ非ス或ハ教育令ヲ以テ市町村カ學校ヲ設置スル場合ノ制限規定ノ如ク解釋シ小

學校、中學校等ニ關シテハ教育令ノ規定アルヲ以テ之ニ依ルヲ要スレトモ各種學校ニ關シテハ教育令ニ何等ノ規定ナキヲ以テ市町村ニ於テハ市制町村制ノ範圍内ニ於テ當然之ヲ設置シ得ヘシトナスモノアリト雖モ是レ初メヨリ學校ヲ以テ市町村ノ營造物ト看做セルニ依ルモノニシテ現行法令ノ解釋トシテ此論ヲ誤レルコトハ吾人カ上來論スル所ニ依リ自ラ明ナルヘシ尙ホ市制町村制ニ於テ地方公共事務中ヨリ除外セル教育事業ノ中ニハ圖書館ノ如キモノヲモ包含スルヤ否ヤハ頗ル疑フヘシト雖モ明治三十二年勅令圖書館令ニ於テハ圖書館ヲ以テ彼ノ學校等ト同シク國ノ營造物ト看做スニ非スンハ市制町村制ニ概觸スルニ至ルヘキ規定ヲ設ケタルヲ以テ見ルハ市制町村制ニ於テモ圖書館事業ヲ教育ノ中ニ包含セシメ地方公共事務中ヨリ除外シタルモノナルカ此點ハ暫ク疑フ存スルノ餘地アリト信ス次に地方公共事務ニ付テ注意スベキハ此事務ハ獨リ市町村自ラ或事業ヲ經營スルコトヲミテ意味スルモノニ非スシテ市町村ノ公益ニ關スル事業ニ對シ寄附又ハ補助ヲナスコトヲモ包含スルモノナルコト是ナリ市町村ノ地方公共事務ハ廣ク市町村住民ノ公益ニ關スル事務ヲ

指スモノナルカ故ニ市町村内ニ或事業ニ對シ寄附又ハ補助ヲナスコトカ市町村住民ノ公益ヲ進ムルモノトイフヘキ場合ニ於テハ市町村ハ當然地方公共事務ノ範圍内トシテ之ヲナスヲ得ヘキハ論ヲ待タズ或ハ郡制府縣制北海道區制其他ニ於テハ府縣郡區等カ寄附又ハ補助ヲナシ得ヘキコトヲ明定セルニ拘ラズ獨リ市制町村制ニ於テ何等ノ規定ヲ設ケサルヨリ推論シテ市町村ニ於テハ寄附又ハ補助ヲナスヲ得ナルモノナリト論スルモノアリト雖モ郡制府縣制其他ノ法律ハ市制町村制ニ後レテ制定セラレタルカ故ニ立法者ニ於テ殊ニ注意シ疑義ヲ避クルカ爲メニ明文ヲ設ケタルニ過キス其精神ハ市制町村制ト異ナル所ナシ即チ市制町村制ニ於テ明文ナキカ故ニ市町村ハ寄附又ハ補助ヲナシ得ストイフカ如キハ全ク市制町村制ノ精神ニ反スルモノトイフヘキナリ次ニ注意スヘキハ市町村ニ於テハ營業ヲナスヲ得サルコト是ナリ市町村ノ地方公共事務中營造物ノ設置ノ如キハ最主要ナルモノニシテ彼ノ水道ノ如キ病院ノ如キ電氣電燈瓦斯ノ事業ノ如キ市街交通事業ノ如キ市町村殊ニ市ニ於テ銳意之カ施設ヲナスヘキモノトス而シテ市町村ニ於テ營造物トシテ經營シ得ヘキ

事業ノ種類ニ至ラハ固ヨリ之ヲ限定スルコトヲ得ス元來公共團體ニ於テ爲スヘキ事業ト一私人ノ爲スヘキ事業トノ分界ノ如キハ到底之ヲ劃スルヲ得サルモノニシテ結局市町村ニ於テハ如何ナル事業ト雖モ取テ以テ自己ノ事業トナシ自己ノ營造物トシテ之ヲ經營スルコトヲ得ヘシ現ニ外國ノ市町村ニ於テハ貯蓄銀行實屋及居獸等ノ事業ヲモ營メルモノアルナリ如斯ク市町村ハ營造物トシテハ如何ナル事業ヲモ經營シ得ヘシト雖モ營利的ニ之ヲ爲スカ如キハ固ヨリ其權能外ニ屬スルモノトイハサルヘカラス營造物トシテ之ヲ經營スル場合ニ於テモ使用料手数料等ニ依リ多少ノ利潤ヲ得ルコトアルヘキハ勿論ナリト雖モ然モ此場合ニ於テハ其主トスル所ハ公益ニアリテ營利ニ非ス故ニ營業トシテ營利的ニ之ヲ經營スル場合トハ大ニ其趣旨ヲ異ニスルナリ而シテ公益ヲ主トスル事業ニ非サレハ地方公共事務ノ範圍内ニ屬スルモノトイフヲ得サルカ故ニ營業ヲナスハ市町村當然ノ權能ニ屬セザルコト亦自然ノ結果ナリトイフヘシ唯市町村ニ於テハ其行政費用ヲ支辨スル財源トシテ財產ヲ所有スルコトアルカ故ニ其財產ヲ管理利用ニ屬スル行爲例ヘハ現金ヲ一商人ニ貸付ク



土地家屋ヲ賃貸スルカ如キハ之ヲナシ得ヘキコト勿論ナリトス尙ホ注意スヘキハ市町村ニ於テ其權能ニ屬スル地方公共事務ヲ處理スル場合ニ於テハ市制町村制ノ規定ニ依ルヘキハ言フ待タザレトモ其他特殊ノ事業ニ關スル取締規則タル法令ノ規定ハ固ヨリ之ヲ遵奉セサルヘカラサルコト是ナリ例ヘハ市町村ハ營造物トシテ電氣鐵道事業ヲ營ムコトヲ得レトモ之ニ付テハ逓信省令タル電氣事業取締規則ノ規定ニ從フコトヲ要シ又市町村ニ於テ河川ノ公共工事ヲ施行スルニ當リテハ之ニ關スル勸令省令以下ノ警察規則モ一之ヲ遵守セサルヘカラサルカ如シ市制町村制ニ於テハ市町村ノ行政ニ對スル監督權ノ作用トシテ或事項ハ特ニ内務大臣大藏大臣等ノ許可ヲ得ルヲ要ストシ又合議體タル市町村機關ノ議決ヲ停止シ上級團體ノ參事會ノ裁決ヲ請ハシムル等ハ他ノ機關ヲシテ議決ヲ停止シ上級團體ノ參事會ノ裁決ヲ請ハシムル等ノ規定ヲ設ケ居レルカ故ニ或ハ市町村ノ行動ヲ制限シ得ルハ右ノ規定ニ依ル場合ニ限リ其他ニ於テハ市町村ハ其行動ニ付キ何等ノ拘束ヲ受ケズ即チ市制町村制ノ特例ヲ設ケ得ルカアル法律ナラハ格別勸令以下ノ命令ヲ以テ市町村ノ行動ヲ制限

スル規定ヲ設ケルヲ得サルモノナリト連斷スル者ナキヲ保セスト雖モ右ニ舉ケタル市制町村制ノ規定ハ特ニ國家ノ機關タル市町村ニ對スル國家ノ監督權ノ範圍ヲ明ニシタルニ止マリ決シテ之ヲ外ニシテハ市町村ハ各方面ニ於ケル法規ヲ無視シテ自由ノ行動ヲナシ得ヘシトノ趣旨ヲ有スルニ非ス畢竟市制町村制ニ於テ市町村ニ人格ヲ與ヘ之ヲシテ地方公共事務ニ屬スル種種ノ事業ヲ施行スルコトヲ得シムルハ唯他ノ法令カ許スナラハ市町村ハ此等ノ事業ヲナシ得ルノ權能アリトイフニ過キズ即チ市町村ヲシテ法令ノ範圍内ニ於テ其事業ヲナスコトヲ得シムルモノニ過キサルカ故ニ極端ニ論スレハ或場合ニ於テハ勸令以下ノ規定ヲ以テ地方公共事務ニ屬スル或事業ヲ行フコトヲ市町村ニ對シテ禁止スルコトヲモナシ得ヘク況ヤ其制限ヲ設ケタルカ如キハ勸令以下ヲ以テ之ヲナシ得ヘキコト論ヲ待タス如斯キハ固ヨリ市制町村制ノ初ヨリ豫想スル所ニシテ決シテ其規定ト相抵觸スルモノニ非サルナリ

然自己ノ權能トシテ施行シ得ル所ノ地方公共事務即チ市町村成立ノ本來ノ目

的タル事務ハ之ヲ固有事務ト謂フ固有事務ノ外法令ノ特別ノ規定ニ依リ或ル國家事務又ハ公共團體ノ事務ヲ市町村ニ委任シ市町村ノ事務トシテ之ヲ行ハシムルモノヲ委任事務ト謂フ此處ニ注意スヘキハ右ニ謂フ所ノ委任事務ノ場合ト法令ニ於テ特ニ市町村團體ノ一ノ機關ヲ指定シ之ヲ國家其他ノ公共團體ノ機關トシテ國家其他ノ公共團體ノ事務ヲ行ハシムル場合トヲ混同スヘカラサルコト是ナリ後ノ場合ニ於テハ市町村カ自己ニ委任セラレタル事務ヲ自己ノ機關ニ依リ行フニ非スシテ市町村ノ一機關カ國家其他ノ公共團體ノ機關タル資格ニ於テ國家其他ノ公共團體ノ事務ヲ行フモノニ外ナラサルカ故ニ所謂市町村ノ委任事務トイフモノトハ全ク其趣ヲ異ニスルナリ此等ノ關係ハ後ニ行政區畫トシテノ市町村ヲ述ブルニ當リ之ヲ論スルノ機會アルヘシ尙ホ市町村ノ機關ヲシテ國家其他ノ公共團體ノ事務ヲ行ハシムル場合ニ於テモ其費用ハ市町村ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノナレトモ此レ法ノ特別ノ規定ニ依ルモノニシテ其事務カ市町村ノ事務トナルカ故ニ市町村ニ於テ其費用ヲ負擔スルニ非サルナリ我市制町村制ニ於テハ國家其他ノ公共團體ノ事務ヲ市町村ニ委任

シ市町村ノ事務トシテ之ヲ施行セシムルノ主義即チ委任事務ノ主義ヲ採ラスシテ國家其他ノ公共團體ノ事務ヲ委任スル必要アル場合ニハ特ニ市町村ノ機關ヲ指定シ之ヲシテ其事務ヲ施行セシムルノ主義ヲ採レルカ故ニ若シ眞ノ委任事務トシテ市町村團體ニ國家其他ノ公共團體ノ事務ヲ委任セントセハ市制町村制ノ特例ヲ設ケ效力アル法規即チ法律ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス故ニ市町村ニ對スル委任事務ハ皆法律ノ規定ニ依レリ例ヘハ國稅徵收法及府縣制並ニ其委任命令タル府縣稅徵收ニ關スル件トイヘル勅令ニ於テ國稅及府縣稅ノ徵收ヲ市町村ニ委任セルカ如キ是ナリ唯市町村ニ對シテ學校其他教育機關ノ設立維持ヲ命シ又ハ之カ設立維持ヲ許スカ如キハ委任事務ナルニ拘ラス學校等ハ皆勅令ヲ以テ規定セララルルカ故ニ稍疑ヲ容ルヘキニ似タレトモ此レハ地方學事通則トイヘル法律ニ於テ市町村カ勅令其他ノ規定ニ依リ學校其他教育機關ヲ設立維持スル權能ヲ有シ又ハ義務ヲ有スルコトヲ意味スルモノト解スルノ外大ニシテハ委任事務ノ性質ニ依リテ委任事務トイハレ得ルナリ

市町村自身ニ於テニノ場合ニ其事務カ必要ナルヤ否ヲ考慮シ自ら必要ト認  
ムル場合ニ於テノミ之ヲ行フコトヲ得ル事務ヲ謂ヒ必要事務トハ市町村ニ於  
テ其事務ヲ行フ必要アルコトガ法ニ依リテ既ニ定マリ町村カ自ら其要不要ヲ  
認ムルノ自由ヲ有セサル事務ヲ謂フ隨意事務ト必要事務トニ依リ市町村ニ對  
スル國家監督權ノ作用ニ差異アリ即チ必要事務ハ市町村ニ於テ當然之ヲ施行  
セサルヘカヲチルモノナルカ故ニ若シ市町村ニ於テ之ニ必要ナル費用ヲ支出  
セサル場合ニハ監督官廳ハ強制シテ之ヲ支出セシムルコトヲ得之ニ反シテ隨  
意事務ハ元來市町村ノ自由ニ一任スルモノナルヲ以テ之ニ對シテハ其費用ヲ  
強制支出セシムルコトヲ得サルナリ此處ニ所謂隨意事務必要事務ノ區別ハ固  
有事務委任事務ノ區別ト其標準ヲ異ニス故ニ固有事務中ニモ必要事務アリ委  
任事務中ニモ隨意事務アルコトヲ妨ケス

市町村ハ固有事務委任事務等ニ要スル費用ヲ負擔スルハ言フ迄モ無ク其他從  
前市制町村制施行以前即チ區町村時代ノコトヲ意味ス法律命令ニ依テ賦課セ  
ラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セララルル支出ヲ負擔スルノ義務アルモノト

ハ該決定カ何時確定スルヤ實際ト知リ難ク代價支拂ノ時期ヲ知ル能ハサル故  
ニ實際ノ手續トシテハ強制執行手續ニ於ケルカ如ク裁判所ハ競落許可決定ノ  
確定後代價支拂並ニ配當ヲ爲シ一定ノ期日ヲ定メ民事訴訟法第六九三條參  
照此期日ニ競落人其他利害關係人ヲ呼出シ一方ヨリ代價ヲ受取リ他方ニ之ヲ  
配當スルヲ可トスヘク此期日ニ代價ヲ支拂ナキトキハ再競賣ノ手續ニ出ツヘ  
キモノト信ス

第一 代價ノ支拂

代價トハ競落許可決定中ニ掲ケラルル代金ノ額ニシテ右ニ陳ヘタル時期ニ於  
テ之ヲ支拂フコトヲ要ス

競落人ハ競落許可決定ノ時ヨリ不動産ノ所有權ヲ取得スル者ニシテ此時ヨリ  
後ニ不動産ニ生スル果實ハ競落人ノ所有ニ歸スヘキモノナルコト前ニ陳ヘタル  
ルカ如ク又タ競落人ハ競落許可決定アリタル後不動産ノ引渡アル迄管理人ヲ  
シテ之ヲ管理セシムルコトノ申立ヲ爲シ得ヘキコト亦前陳ヘタルカ如クナル  
カ故ニ競落人ハ競落許可決定ノアリタル時又ハ管理人ニ不動産ヲ引渡アリタ

ル時ヨリ代金ノ利息ヲ拂ハサルヘカラサルヤ否ヤ問題ヲ生スヘシ  
 依テ按スルニ本法ノ競買ニ付テハ代價ノ最低價其他ニ關シ賣却上法律ニ條件  
 ノ規定アルコト前陳ノ如クニシテ單純ニ民法ノ賣買ノ規定ニ從テ萬事ヲ決定  
 スルコトヲ許サス競買法ニ一定ノ條件ノ規定アルニ於テハ先ツ此條件ニ從テ  
 問題ヲ決定スルヲ相當ナリト信ス而シテ同法ハ代價ノ支拂ニ付キ一定ノ時期  
 ヲ規定シ代價ハ競落許可決定ノ確定後之ヲ支拂フヲ以テ足リ假令其前ニ管理  
 人ヲシテ不動産ヲ引渡フ受クシムルトモ右陳ヘタル時期以前ニハ代價ヲ支拂  
 フコトヲ要セザル旨ヲ規定シ競落人ハ此賣却條件ニ從テ競買ノ申込ヲ爲シタ  
 ル者ナルカ故ニ競落人ハ競落許可決定ノ確定後ニ於テ單ニ代價ヲ支拂フヲ以  
 テ足リ之カ利息ヲ支拂フコトヲ要セザルモソト信ス況ンヤ管理人ハ必スシモ  
 之ヲ以テ買主(競落人)ノ代理人ト觀ルコト能ハス隨テ買主カ之ニ依リ不動産ノ  
 引渡ヲ受クタリト認ムル能ハサルニ於テハ買主(競落人)ノ代理人ト觀ルコト能  
 タル金額ハ之ヲ代金ニ算入スト雖モ本法ニハ別ニ此ノ如キ規定ナキカ故ニ保

證ヲ供シタル者即チ競落人ノ希望アルニ非サレハ右ノ如キ事情ヲ生セス  
 向ホ代金ハ現金ヲ以テ之ヲ支拂フコトヲ要スルヲ元則トスルヤ勿論ナルモ民  
 事訴訟法ニ依リ強制競買手續ニ於テ競落人カ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代  
 金ノ支拂ニ換ヘ此額ニ滿ラルマテ債務ヲ引受クルコト即チ更改ヲ許スカ如キ  
 又々債權者カ競落人ニシテ競買代金中ヨリ辨濟ヲ受クヘキ順位ニ在ルトキ其  
 受クヘキ金額カ買入代金ノ額ニ滿ラル限リ買入代金トシテ之ヲ計算シ以テ代  
 金支拂ノ義務ヲ消滅セシムルカ如キコト(民事訴訟法第六九九條參照)競買法  
 中ニ規定ナキモ之ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノト信ス何トナレハ買入代金ヲ支  
 拂フノ義務ハ一般民法上ノ債務ニ外ナラザレハナリ  
 第二 配當手續  
 競買法ニ於テハ民事訴訟法ニ依リ強制競買ノ手續ニ於ケルカ如ク(同法第六九  
 三條)代金支拂ノ日ニ配當ノ手續ヲ爲ササルヘカラサルニ非スト雖モ同日ニ之  
 ヲ施行スルノ便宜ナルコトハ前陳ヘタルカ如シ  
 裁判所ハ一定ノ期日ヲ定メテ競落人債權者所有者不動産上ノ權利者登記簿ニ

登記アル者及ヒ登記簿ニ登記ナキモ不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ裁判所ニ届出テ之ヲ證明シタルモノ即チ留置權者先取特權者中ノ或者國稅ニ付キ國庫ノ如キヲ包含ス等ノ利害關係人ヲ呼出シ一方ヨリ代金ノ支拂ヲ受ケ其中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シテ費用額ハ之ヲ受ケヘキ者ニ交付シ殘金ハ遲滞ナク之ヲ受ケヘキ者ニ交付スヘキコト法律ノ規定スル所ナリ(第三三條第二項)

然レトモ殘金ヲ受取ルヘキ者ノ何人ナルキハ本法ノ規定セサル所ナルヲ以テ民法等ノ實體法ノ規定ニ從テ之ヲ決セサルヘカラスヨリ買入ノ金或ハ依テ按スルニ競賣ノ目的タル不動産上ニ物上擔保權ヲ有スル債權者アルトキ(即チ前示ノ債權者アルトキ)ハ費用額ヲ控除セル代金ノ殘額ハ順位ニ從ヒテ是等ノ債權者間ニ分配シ向ホ殘餘アレハ之ヲ債務者ニ但若シ物ヲ擔保ニ供シタル者カ債務者以外ノ者ナルトキハ其所有者ニ交付スヘキモノトス第三三條第二項)並ニ之ノ競賣ノ費用額ハ債務者ノ負擔スル所ナリ(第三三條第三項)然レモ競賣ノ費用ニ付キテハ尙ホ後ニ之ヲ說カシメテ之ヲ賣入ノ代金ノ前記ノ債權者亦競賣法ニ依ル競賣ノ代金ヨリ辨濟ヲ受ケルニハ民事訴訟法所

定ノ債務名義ヲ要スルモノニ非ス故ニ債權者ハ其權利ニ付キ確定判決アリテ之ヲトコロト又ハ執行力アル公正證書ノ作成アリトコロト主張證明スルノ必要ナク苟モ裁判所ニ於テ債權者カ競賣代金中ヨリ配當ヲ受ケルノ權利ヲ有スルモノナルコトヲ認め足ル而シテ配當ヲ求ムル前陳債權者ノ權利ニ付キ債務者又ハ他ノ債權者ヨリ異議ヲ申立テタル場合ニ付キテハ競賣法ニ別段ノ規定ナキカ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ異議ノ當否ヲ審査シ以テ配當ヲ受ケルノ權利アル者ニ配當ヲ爲スヘキモノト信ス事ヲ得ル也(第三三條第三項)

但競賣法ニ依ル不動産ノ競賣ニ於テ其競賣代金中ヨリ辨濟ヲ受ケヘキ債務者ニ此不動産ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモノタルヲ要シ隨テ登記簿ニ登記アル不動産上ノ權利者即チ先取特權者不動産質權者抵當權者及ヒ登記簿ニ登記ナキモ不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者即チ留置權者先取特權者ノ或者國稅ニ付キ國庫ニ限リ其他ノ債權者ハ直チニ本法ノ競賣代金中ヨリ辨濟ヲ受ケ得ヘキモノニ非ス隨テ此ノ如キ者ヨリ配當ノ要求アリトモ裁判所ニ其申出ヲ採用スヘカラスナルモノト信ス何トナレハ競賣法ニ依ル競賣ハ債權

者ヲ満足セシムルノ手段トシテ、單ニ留置權者先取特權者抵當權者等物上擔保權ヲ有スル者ヲ満足セシムルヲ目的トスルモノナルコトハ(一)第二十二條第一項ノ法文ニ徴シ、(二)又々第二十七條利害關係人ノ規定ニ徴シ、(三)又々本法第二條所定ノ物上擔保權ノ消滅ニ關スル規定ニ徴スルモ之ヲ推知シ得ヘキノミナラス(四)物上擔保權ヲ有セタル普通ノ債權者ハ債務者ニ對シテ辨濟ヲ求ムルノ權利ハ之ヲ有スルニセヨ特定セル物本法ニ付テ云ヘハ競賣ノ目的タル不動産ニヨリ擔保セラルルニ非タルカ故ニ若シ競賣法ニ依ル競賣手續ニ於テ一般ノ債權者モ配當ヲ要求シ得ヘキノトセハ民事訴訟法所定ノ強制執行ノ規定ヲ無視スルニ當リ現行ノ法制上許スヘカラサル所ナレハナリ

隨テ一般債權者ニシテ競賣代金ノ剩餘中ヨリ辨濟ヲ得ントセハ民事訴訟法所定ノ債務名義ヲ得タル後同法第四九七條、第五九條先ツ管轄裁判所ニ右剩餘金額ノ差押ヲ申請シ同法第五九四條更ニ取立命令又ハ轉付命令ヲ申請スルコトヲ要スルモノトス(同法第六〇〇條)

尙ホ實際ノ手續トシテハ債權者ヨリノ債權額ノ届出並ニ登記簿ノ謄本等ニ基

キ元本、費用、利息ヲ計算シ民法、商法其他特別法ノ規定ニ從ヒ權利ノ順位ヲ調査シテ配當ノ表ヲ作成シ之ニ依テ配當ヲ實施スルコトヲ爲ルルニ由ルニシテ

**第十六節 競賣終了ニ關スル登記**

競賣人カ代價ヲ裁判所ニ支拂ヒタルトキハ裁判所ハ競落許可決定ノ謄本ヲ添

ヘテ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘキノト

ス第三三條第一項 尙ホ不動産登記法第二五條第二九條等參照

○書式第十號 不動産競賣終了登記ノ囑託書

**不動産競賣終了登記囑託書**

某所何某ノ所有ニ係ル左記ノ不動産ニ付キ明治三十年年月日某所何某ニ競落ヲ許可シタルニ依リ競賣法第三十三條第一項ノ登記相成度競落許可決定正本相添此段及囑託候也

明治三十年年 月 日

不動産ノ買賣 買手ニ關スル登記

第三十條 日

何 區 裁 判 所

判 事 何 某

五木林番賣與買手  
若マ若何區裁判所  
其間何某ノ買賣ニ  
御 中

所有權移轉登記物件價額金何程也

登錄税金何程也

不動産ノ表示

某所所在

一何々

（注意）登記物件價額及ヒ登録税額ノ記載ノ必要ニ付テハ不動産登記法施行  
細則第三十八條並ニ登録税法第二條第一項四號參照

向ハ競賣不動産ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競賣ニ因リテ消滅スヘク  
不動産買權ハ競買人ヨリ辨濟ヲ受ケルニ因リテ消滅スルハ競賣法第二條ニ因

リ之ヲ知ルコトヲ得ヘキモ是等ノ權利ノ登記ノ抹消ハ如何ニシテ之ヲ爲スヘ  
キヤ詳言スレバ新所有者タル競買人ハ申請ヲ待テ右等ノ登記ヲ抹消スヘキヤ  
又ハ競買人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ノ囑託アルトキ登記所ニ於テ之ヲ  
抹消スヘキヤニ付テハ不動産登記法ニ依テ之ヲ決スヘキモノト信ス民事訴訟  
法ニ依ル強制競賣ニ付テハ同法第七〇〇條參照）買手側ハ第三十條中日  
右陳ヘタル場合ノ外競落ヲ爲スニ至ラヌシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁  
判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記即チ競賣ノ申立アリタルコト  
ノ登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス第五條其場合ハ競賣申立ノ取下アリタ  
ルトキ（此點ニ付テハ本章第二節末款參照）並ニ競賣期日ニ競賣ヲ許ササル旨ノ  
決定ヲ爲シ且爾後新競賣ヲ爲スヘカサル場合之ナリ本章第九節第十三節參  
照一書式第十一號）

### 第十七節 競賣ノ費用

競賣ノ費用ハ何人ノ負擔ニ歸スルキヤ買手ト直接對明文ニ定メ競賣ニ裁判

競賣法 不動産ノ競賣 競賣ノ費用

所ハ競買人ノ支拂ヒタル代價ノ中ヨリ競買人費用ヲ控除スルニ要ストノ規定アルニ徴スレハ(第三三條第二項第一五條參照)競買不動産ノ所有者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノタルヲ知ルヘシ但債務者ノ爲メニ第三者カ其所有不動産ヲ擔保ニ供シ其不動産カ競買セラレタルトキハ此者ハ債務者ニ對シ民法ノ規定ニ從ヒ求償權ヲ有スルヤ勿論ナリ(聯合三〇七條)本條第三三條第三項

○書式第十二號 競買申立記入ノ抹消ノ登記ノ囑託書

明治三十年年( )月( )日 債權人( )

何第何號( ) 債權人( )

明 治 三 十 年 年 月 日

其  
所  
何  
某  
ノ  
所  
有  
ニ  
係  
ル  
左  
記  
ノ  
不  
動  
產  
ニ  
對  
ス  
ル  
競  
買  
手  
續  
ハ  
明  
治  
三  
十  
年  
年  
月  
日  
取  
下  
ア  
リ  
タ  
ル  
ニ  
依  
リ  
若  
ク  
ハ  
明  
治  
三  
十  
年  
年  
月  
日  
競  
買  
手  
續  
開  
始  
決  
定  
ヲ  
取  
消  
シ  
タ  
ル  
ニ  
依  
リ  
明  
治  
三  
十  
年  
年  
月  
日  
及  
囑  
託  
候  
債  
權  
者  
某  
所  
何  
某  
ノ  
競  
買  
申  
立  
記  
入  
ノ  
抹  
消  
登  
記  
相  
成  
度  
別  
紙  
取  
下  
書  
若  
ク  
ハ  
取  
消  
決  
定  
正  
本  
相  
添  
此  
段  
及  
囑  
託  
候  
也  
消  
滅  
ス  
ベ  
キ  
ナ  
リ  
テ  
明  
治  
三  
十  
年  
年 月 日 債權人( )

何 區 裁 判 所

御 中

登錄税金何程也

(注意) 登錄税金ニ付テハ登錄稅法第三條第十一項參照スヘシ

次ニ競買ノ費用トハ如何ニ付テハ別段ニ定義ヲ下シタル規定ナキモ競買手續ノ開始實行上必要ナル費用ナリト解スベク從テ競買申立ノ費用開始決定告知ノ費用該申立記入登記ノ費用期日公告ノ費用鑑定人ノ評價費執達吏ノ取調費用並ニ其競買取扱手数料等ヲ謂フモノト信ス(競買人カ競買並ニ競買等ノ爲メ裁判所ニ出頭スル費用ハ所謂競買ノ費用中ニ包含セラレザルモノトシテ競買人ノ負擔ト解スヘキモノト信ス同人カ代金支拂ノ爲メ出頭スル費用ノ如キハ債務履行ノ爲メニ要スル費用ナラカ故ニ同人ニ於テ負擔スヘキモノトス)



次ニ競落代金不支拂ノ爲メ再競賣ニ付シタルモ代金ニ減額ヲ生シタルトキハ債權者ハ債務者ニ該差額ヲ請求スルノ權利アリヤ否ヲ論スヘシ例ヘハ甲者モ乙ナル債務者ニ對スル金一千圓ノ債權ヲ擔保スル抵當權ニ基キ競賣法ニ依リ不動産競賣ノ申立ヲ爲シ丙ナル者ニ金一千圓ニテ競落シタルモ代金ヲ支拂ハタルニ因リ更ニ其不動産ヲ再競賣ニ付シタルニ第三二條民事訴訟法第六八八條參照時價低落ノ爲メ丙者ニ金八百圓ニテ競落シタルトキ前ノ競落人ハ減價額貳百圓ヲ負擔スルノ義務アルコトハ法律ノ定ムル所ナルモ債權者ヨリ債務者ニ對シ向ホ不足額二百圓ノ辨濟ヲ求メ得ヘキヤ否ヲコト之ナリ依テ按スルニ債權者カ金貳百圓ノ辨濟ヲ債務者ニ求ムルニ方リ其原因トシテ前ノ競落人カ競落代金ヲ支拂ハナリシニヨリ再競賣ヲ見ルニ至リ時價低落ノ爲メ代價貳百圓ヲ減少シタリトコトヲ主張シ恰モ此減價額貳百圓ノ辨濟ヲ求ムルヲ名義トスルナラハ其請求ハ不當ナリト斷ハサルヘカラス何トナレハ此貳百圓ノ減價ハ元ト競落人タル丙カ代金支拂義務ヲ履行セザリシニヨリ生シタル所ニシテ債務者乙ハ此減價ニ關シ故意モナク過失モナク其他特ニ此減

價額ヲ負擔セザルヘカラスアル買ノ法律規定カテレノ邊リニ強欲點ヲ具スル然レトモ若ク如ク再競賣ノ事ヲ請求ノ原因名義トスルコトナラバ唯抵當權實行ノ結果債權千圓ノ内八百圓ヲ辨濟又受ケタルニ止マルカ故ニ債務者乙ハ其債務辨濟未了ノ額貳百圓ヲ支拂ヌ求ムルコト之ヲ爲シ得ル何トナレハ債務者ハ元來總財產ヲ以テ債權者ニ對シ債務ノ履行ヲナスヘキモノニシテ債權者ノ爲メニ抵當權ヲ設定スルコトハ唯タ此債權者ヲシテ他ノ債權者ニ先テ此目的物件ニ依リ其債權ノ辨濟ヲ受ケシムルノ權利ヲ付與スルモノナルモ民法第三六九條其物件ノ價額カ債權者ヲ満足スルニ足ラザルトキニ於テ債務者所有ノ他ノ財產ニ付キ辨濟ヲ受タルノ權利ヲ奪ヒタルモノニ非ザレハナリ民法第三九四條第一項參照右陳フルカ如クナルカ故ニ尙モ抵當權實行ノ結果債權者ヲシテ債權全部ノ辨濟ヲ受ケシムル能ハナリシ場合ニ於テハ債務者ハ債權者ニ對シ之カ不足額ヲ辨濟スルノ義務アルモノニシテ此義務ハ抵當不動産ノ價額ノ低落カ前示ノ如ク再競賣ニ際シ時價ノ低落シタルニ出ツルト又競賣手續ノ遅延ヲ爲メ發生シタルトモ間ヲコトナシ又抵當不動産ノ債務者ノ所有

ニ係ル場合ナレト第三者カ之ヲ抵當ニ供シタル場合ナレト其間ヲトナシ但  
 第三者カ其所有ノ不動産ヲ抵當ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ通常其不動産ノ  
 價額ノ幾ニ付キ債務ヲ擔保スルモノト觀ルヘク絕對ニ價額全部要件ニ於テ  
 ハ千圓ノ履行ヲ擔保スルモノト認ムヘカラサルカ故ニ有モ此者カ抵當不動産  
 ノ犧牲ニ供シ其代價ヲ以テ債權者ニ辨濟ニ充テタルニ於テハ既ニ其義務ヲ悉  
 クシタルモノト謂フヘク債權者ハ此者ニ對シテハ右陳ヘタル名義債務者乙  
 對シテ主張シタルモノニ由ルニ不足額貳百圓ノ支拂ヲ求ムル能ハサルヲ常  
 目由前件ニ對シ其期間ノ裁判マテモ之ヲ動件ニ對シテ其間ノ支拂ヲ求ムル  
 債權者ハ之ヲ主張シ得ルモノト認ムルニ可キ

**第十八節 競落許可決定ノ效力補遺**

競落許可決定アルトキハ競落人ハ之ニ因リ競賣ノ目的タル權利ヲ取得スル  
 ニトシ前陳ヘタルカ如シ(第二條第一項)又テ競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權  
 及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅スルヲ(第二條第二項)次ニ留置權並ニ質權ニ付  
 タル(第二條第三項)於テ競買人ハ留置權者競買人ニ對シテ優先權ヲ有スル質

權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非ラレハ競賣  
 ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得テテノ規定アルニ依リ此辨濟アリタルトキニ於テ  
 消滅スヘキモノトスルニ對シテ其後ニ於テ留置權者競買人ニ對シテ其間ノ支拂  
 次ニ抵當權ノ設定後ニ設定シタル地上權永小作權地役權ハ其後ニ於テ抵當權  
 ノ實行アリタルニ因リ當然消滅スルコトヲ陳フヘシ按ズルニ我民法ニ於テ抵  
 當權カ物權タルコトハ明確ナリ物權ハ物ノ上ニ直接ニ行ハルル權利ニシテ法  
 律ニ特別ノ明文アル場合ノ外ハ他人ノ權利ニヨリ其實行ヲ害セラルルコトナ  
 シ學者カ物權ノ效力ノ一トシテ追及權ナルモノヲ舉グルハ此事ナリ故ニ抵當  
 權設定後ニ於テ抵當不動産ノ所有者カ該不動産ノ所有權ヲ移轉シ又ハ地上權  
 永小作權地役權ヲ設定スルモ抵當權者ハ尙ホ抵當權設定當事ノ有様ヲ害セラ  
 レスシテ其權能ヲ行使得ヘク隨テ後ニ設定セラレタル地上權永小作權等ハ  
 之ヲ無視シテ抵當不動産ヲ競賣ニ付スルコトヲ得ヘキモノナレハ是等ノ權利  
 ハ抵當不動産ノ競落ニ因リ當然消滅スルコト如ク競落人ハ抵當權設定後ニ設定  
 セラレタル地上權永小作權等ニ爲東セラルルモノナキハ抵當權者ハ此種ノ權



ヲ如何ナル形式ニ依テ爲スヘキヤニ付テハ別段ノ規定無キガ故ニ單見ニ依レハ競賣開始決定中ニ之ヲ記載スルコトヲ得ヘタ又タ航行ノ許否ニ開始決定ト同時ニ之ヲ決スルカ又ハ別ニ決定ヲ以テ之ヲ決スヘキモノト信ス而シテ右陳スルカ如ク船舶ノ抑留ヲ命スルノ決定ヲ下シタル當時ニ於テ其裁判所ノ管轄内ニ船舶ノ存モサルコトノ顯ハルルニキリ競賣手續ヲ取消スヘク(第三九條民事訴訟法第七二三條)隨テ裁判所ハ先キ申託セラル競賣申立記入登記ノ抹消ヲ囑託スヘキモノトス

第三 競賣準備手續

競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港(碇泊港以外ノ裁判所ニ於テ競賣ヲ爲ストキハ其現在ノ場所ヲ記載スヘク)(第三八條)又タ碇泊港ノ區裁判所ノ管轄外ノ裁判所ニ於テ競賣ヲ爲スヘキトキハ裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ碇泊港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示スヘキコトヲ囑託スヘキモノトス(第三九條民事訴訟法第七二五條)

### 第五章 增價競賣

#### 第一節 競賣ノ申立

民法第三百八十三條ニ依リ抵當權消除ノ通知アリタル後同法第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當不動産ノ增價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス此規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ其效無ク却下セラレヘキモノトス(第四〇條)

但土地ノ抵當權者ナル外國人カ增價競賣ヲ請求スルニハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ提供金額ニ十分ノ一ヲ加ヘタルモノト競落代價トノ差額ヲ負擔スヘキ旨ヲ附言スルコトヲ要ス明治三十二年法律第六十七號參照之蓋シ外國人ハ土地ノ所有權ヲ取得スル能ハサルカ故ニ民法第三百八十四條第二項ニ依ル能ハサルニ出ツ

競買申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ増價競買請求權者之ニ署名捺印スヘキモノトス(第四一條第一項)書式第十二號參照) 第一 債權者ノ氏名住所 第二 抵當不動産ノ表示 第三 第三取得者及ヒ譲渡人ノ氏名住所 第四 擔保ノ表示 第五 第三取得者カ提供シタル金額 第六 請求者カ定メタル増價金額 第七 年月日 第八 裁判所

向ホ申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ設ケル書面ヲ添附スルコトヲ要ス之蓋シ同條第三號ニ債權者ハ第三取得者ヨリ抵當權濺除ニ關スル書面ノ送達ヲ受ケタルヨリ一个月内ニ増價競買ヲ第三取得者ニ請求スヘシトノ規定アリテ且第三取得者ニ競買ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ裁

意匠匠法

我國意匠保護ニ關スル法令ハ明治二十一年勅令第八十五號意匠條例ヲ最始トシ發明及商標ノ保護ニ關スル法令ハ明治十七八年ニ於テ已ニ之ヲ見タリシカ

總說

我國意匠保護ニ關スル法令ハ明治二十一年勅令第八十五號意匠條例ヲ最始トシ發明及商標ノ保護ニ關スル法令ハ明治十七八年ニ於テ已ニ之ヲ見タリシカ  
至ルニ意匠登錄出願ノ數ハ之ヲ特許及商標ノ出願ニ比スレハ甚多尠ナキヲ見

- 出願 明治三十二年 明治三十四年 明治三十六年
- 特許 出願 一九一五年 一九二三年 一九三二年 一九三五三年
- 登錄 一九一五年 一九二三年 一九三二年 一九三五三年

出願	五四二	五〇四	一八三
出願	一三三九	二二四一	三三六二
出願	四三三七	四三〇八	四三三七
出願	一九四二	一六二一	一九二四

是レ獨リ我國ニ於テノミ然ルニ非ス孰レノ國ニ於テモ同様ノ傾向アルカ如シ  
 現ニ特許法、商標法ハ有レトモ意匠法ノ制定ナキ國モアリ又意匠法ノ制定アル  
 モ他ノ工業所有權保護ノ法令ニ比シテ甚タ不備ナルモノ多シ  
 意匠保護ニ關スル法令ノ最古ハ千五百八十年以太利、フロレンツ市ニ於テル  
 織物組合ノ規則トス此規則中ニハ新規ノ意匠ノ考案者ニ二年間之ヲ專用スル  
 權利ヲ與ヘ之ヲ侵害セル者ニハ四十リルノ罰金ヲ科スル旨ヲ規定セリ其後以  
 太利人カ絹糸工業ヲ佛國里昂ニ傳ヘテヨリ其法律思想モ亦共ニ傳ハリテ千七  
 百十二年ニ里昂ノ商事裁判所ノ命令ヲ以テ絹糸工業ニ關シテハ工業ノ爲メニ  
 委託セラレタル意匠ヲ竊取シ竊用シ又ハ他人ニ貸與シ賣却スル等ノ行爲ヲ禁  
 シタリ千七百八十八年ニ至リテハ此禁令ハ遂ニ刺繡ノ意匠ニモ及ホセリ當時

又巴里ニテハ美術品、鑄物、陶器等ニ關スル立體雛形ノ保護ニ關スル立法起レリ  
 而シテ皆主トシテ背信ノ行爲ヲ禁スル趣旨ニ基キタルカ如シ  
 獨逸ニ於テライン地方ノ佛法ノ支配ヲ受ケタリシ地方ヲ除キテハ一般ニ意匠  
 ノ保護ニ關スル觀念ノ發達遅カリシカ如シ十八世紀中ザクセンニ於テ刺繡織  
 物、レース及模樣附陶磁器等ニ關シ、普魯西ニ於テハ伯林ノ金銀モトル絹織物及  
 刺繡ニ關シ他人ヨリ依託セラレタル意匠ヲ摸擬スルコトヲ禁シタリ是亦背信  
 ノ行爲ヲ禁スルノ趣旨ニシテ未タ近世ノ法律思想タル意匠專用權ヲ認メタル  
 モノニ非ス意匠專用權ヲ認メタル立法ノ元祖ハ佛國ノ千七百九十三年ノ法規  
 ナリ其規定ニ從ヘハ工業者ハ自己ノ考案セル又ハ自己ノ計算ニ於テ考案セル  
 タル意匠ヲ寄託シテ十五年間之ヲ專用スル權利ヲ得ルコトナレリ千八百  
 六年ニ至リテハ里昂工業審理會設置ニ關スル勅令中ニ意匠保護ニ關スル規定  
 ヲ置ケリ之ヲ佛國現行意匠法トス此勅令ハ元來里昂市ニ於テル絹織物ノ意匠  
 ニノミ關スルモノガリシモ千八百二十五年八月十七日勅令ヲ以テ之ヲ全國  
 一般ニ施行スルニ至レリ獨逸ニ於テハ千八百七十六年法律現行法ニ至リテ始

メテ意匠法ノ形體ヲ具備セズニ就テハ千八百三十六年特許法ヲ廢止シテ英國ニ於テハ千七百八十七年ジョージ三世第二十七年ノ條例第三十八章ニ於テ形附麻布及綿布ノ意匠ニ關シ二个月間ノ保護ヲ與ヘタルヲ初メトシ同第三十四年ノ條例第二十三章及ゾイクトリヤ第二二年ノ條例第十三章及第十七章ニ於テハ織物一般及模樣附陶磁器ニ及ホセリ其後千八百四十二年千八百四十三年及千八百五十年ノ法律ヲ以テ意匠保護ニ關スル法規大體備ハリ更ニ千八百八十三年改正特許條例中第四十七條乃至第六十一條ニ意匠ニ關スル規定ヲ編入セリ之ヲ現行法トス

意匠保護ニ關スル立法ハ特許法商標法ニ比スレハ一般ニ甚ク發達セス前記英獨佛ニ於テ見ルモ獨佛ノ立法ハ已ニ甚ク古ク英國ニ於テハ特許法ト同時ノ制定ニ係ルト雖モ亦已ニ二十年ヲ經過セリ此他現行意匠法ノ主ナルモノヲ舉ゲレバ

北米合衆國「レプアイस्टタチ」四九二九—四九三三  
 以太利 千八百六十年法律 立憲國津ノ附屬ニ關スル立法ニ就キテ

「セムピヤ」千八百八十四年法律

瑞 西千八百八十八年法律

印 度千八百八十八年法律

「タスマニオン」千八百九十三年法律

葡 牙千八百九十四年法律

「クインストランド」千八百九十六年法律

本邦ニ於テハ明治三十七年法律第三十七號ヲ以テ現行意匠法ヲ發布シ明治二十一年ノ意匠條例ヲ廢止セリ

國際的意匠保護ニ關シテハ特許法總說中ニ述ヘタル萬國工業所有權保護同盟條約中ニ規定アリ大體特許ト異ナル所ナシ但優先期間カ特許ニ比スレハ短カク三個月海外國ハ四個月且ツ條約第五條特許品ノ輸入ニ關スル規定ノ適用ナキノ事

意匠法ハ大體特許法ト其規同ク故ニ特許法ノ條文ヲ準用セル所極メテ多シ左ニ準用條文及其事項ヲ示サズ

- 一 特許法第六條第七條 代理人ニ關スル規定
- 二 同第八條第九條 代理業者ニ關スル規定
- 三 同第十條 指定期間内ニ手續ヲ爲ササル場合ノ制裁ニ關スル規定
- 四 同第十二條 出願アリタルトキハ審査官發明ヲ審査スル規定
- 五 同第十三條 原簿登錄及特許證下付ニ關スル規定
- 六 同第十五條 博覽會共進會及萬國博覽會出品者ノ出願ニ關スル規定
- 七 同第二十一條 拒絕査定書送付ノ規定
- 八 同第二十三條 拒絕査定及抵觸査定ニ對スル再審査ノ請求再審査ヲ爲スヘキ審査官及再拒絕査定書送付ニ關スル規定
- 九 同第二十八條 再査定及抵觸査定ニ對スル審判請求ニ關スル規定
- 十 同第二十九條 權利確認ノ審判請求ニ關スル規定
- 十一 同第三十條 無效審判ニ關スル規定
- 十二 同第三十一條 審査審判及報酬額ノ決定ニ關スル證據調ニ關スル規定

第十三 同第三十二條乃至第三十四條 審判官及審判手續ニ關スル規定

第十四 同第三十五條第三十六條 審判ニ對スル上告ニ關スル規定

第十五 同第三十七條 審判費用ノ負擔及費用額ノ決定ニ關スル規定

第十六 同第五十一條 書類ノ送付ニ關スル規定

之ヲ要スルニ凡ソ手續ニ關スル規定ハ殆ト全ク特許法ノ規定ノ準用アリ此他  
 尙權利ノ效力ニ關シ權利者ノ義務ニ關シ權利ノ侵害ニ對スル制裁ニ關シ特許  
 法ニ説明セラル所ヲ參照スレハ特ニ解説ヲ要セザルモノ亦尠カラス此等ヲ特許  
 法講義ト重複シテ一一説明スルハ益ナキヲ以テ本講義ニ於テハ意匠法ニ特有  
 ノ事項ノミヲ説明スルニ止ムヘシ依テ大體左ノ順序ニ從テ講説スヘシ

第一章 意匠ノ發見

第二章 意匠權ノ發生

第三章 意匠權ノ效力

第一章 意匠



一 意匠トハ何シヤ我意匠法ニ於テ意匠ト稱スルハ恰モ特許法ニ於ケル發明ノ如ク考案其物ヲ指シタルモノナルヤ將又著作權法ニ於ケル著作ノ如ク考案ヲ一定ノ形式ヲ以テ實現セシメタルモノヲ指シタルモノナルヤハ疑問アル所ナリ多數ノ立法例ニ於テハ所謂ル意匠ハ考案ヲ一定ノ形式ヲ以テ現ハシタルモノ即チ雛形ナリ意匠專用權ハ此ノ雛形ノ創作ニ因リテ始メテ成立スルコト殆著作權カ著作物ノ創作ニ因リテ發生スルカ如シ然ルニ北米合衆國法第四九二九條及伊太利意匠法(第一條)意匠ノ發明ト稱シ又意匠ノ特許ト稱ス故ニ米伊法主義ニ於テハ意匠專用權ノ目的ハ考案其物ニシテ考案ヲ實現セシメタル物體ニ非スト云ハサルヘカラス我意匠法ニ於テ意匠ト稱スルハ孰レノ主義ヲ探レルモノト解スヘキヤ意匠ナル文字ノ在來ノ用例ヨリ云ヘハ直ニ考案其物ヲ指スヘキカ如シト雖モ米伊法ノ如ク之ヲ發明ト云ハス又之ニ關スル權利モ特許ト云ハスシテ意匠專用權ト云ヒ又意匠ノ登錄ト云ヒ意匠ノ類似ト云ヒ却テ商標法ニ準シタル所多キヲ見ルトキハ意匠ハ考案其物ニ非スシテ考案ヲ一定ノ形式ヲ以テ實現セシメタルモノ即チ雛形ヲ指シタルモノト解スル

スハ根據ナキカ如シ仍チ本講義ニ於テハ前説ヲ改メ前述ノ如ク之ヲ解スル如ニ至レリ  
 (第三) 翻譯權  
 文藝學術ノ著作物ヲ原著物ト異ナリタル國語ニ於テ言顯ハスコトヲ稱シテ翻譯ト謂フ即チ翻譯ナルモノハ同一ノ思想ヲ他ノ國語ニテ言顯ハスモノ

ナレハ原著物ノ複製ニ外ナラス而シテ著作物ノ複製ハ著作物ノ專有タル權利ナレハ翻譯權モ亦當然著作物ノ權利即チ著作權ノ中ニ包含セラレルモノト謂ハサルヘカラス故ニ著作權第一條第二項ノ如キ規定ナキモ解釋上翻譯權ハ著作權ノ中ニ包含セラレルモノト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ從來我國ニ於テハ翻譯權ヲ以テ版權ノ一部ト看做サス又歐洲諸國ニ於テモ特ニ翻譯權ヲ認メタル立法例アルヲ以テ疑義ノ生スルコトヲ恐レ斯ル規定ヲ設ケタルナラシメ  
 此ノ如ク翻譯權ハ著作權ノ一部ナルカ故ニ著作物ノ許諾ナクシテ原著物ヲ翻譯スルトキハ著作權ノ侵害ト爲ル而シテ此場合ニ於ケル侵害ハ財產權

ト人格權トノ二方面ノ侵害ナリ蓋シ原著物ヲ翻譯シ之ヲ發行スルトキハ原著物ノ發賣高ヲ減スルカ故ニ此點ニ於テハ財產權ヲ侵害シ又一面ニ於テハ不完全ナル翻譯ニ依リテ著作者ノ意ヲ害シ其名譽ヲ傷クルカ故ニ此點ニ於テハ人格權ヲ侵害ス此ノ如ク翻譯ノ權利ヲ著作者ニ留保セシムルコトハ著作者ノ財產的並ニ人格的權利ノ保護ニ於テ缺クヘカラサルコトナルカ故ニ近世諸國ノ著作權法ニ於テハ皆翻譯權ヲ著作權ノ一部ト爲シ著作者ニ之ヲ翻譯ノ專權ヲ與フ只露國ノ著作權法ニ於テハ翻譯權ヲ以テ著作權ノ一部ト爲サス隨テ著作者ノ許諾ナクシテ翻譯ヲ爲スモ著作權ノ侵害ト看做サス

第九章 著作權ノ移轉

前章ニ於テ述ヘタル如ク著作權ハ財產權ト人格權思想維持權トノ二方面ヨリ成立スル權利ナリ而シテ財產權ノ方面ニ關シテハ所有權等ト同シク買賣讓與スルコトヲ得ルモ他ノ方面タル人格權ハ著作者ニ專屬スル權利ナルカ故ニ賣

買讓與ノ目的物タルコトヲ得ス著作權法第二條ニ著作權ハ讓渡スコトヲ得タルハ財產權ノ部分ニ對シテノ規定ナリト解釋セタルヘカラス同法第十八條ニ於テハ著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其題號ヲ改メ又ハ其著作物ヲ改竄スルコトヲ得スト規定シ著作者ノ思想的維持權ハ著作權ノ移轉ニ伴ハサルコトヲ明言セリ故ニ著作權ノ移轉ナルモノハ單ニ著作物ヲ發行シテ利益ヲ受クル權利ノ移轉ノ謂ナルヤ明カナリ佛國著作法學者ブーエー氏曰ク著作權ノ讓受人ハ著作者ノ人格ヲ尊重スルノ義務ナルカ故ニ著作者ノ意思ニ反シテ其著作物ヲ改竄スルコトヲ得スト(同氏著作權法論二六六頁此原則ハ總テノ著作權法學者ノ均シク認ムル所ニシテ又各國立法例ノ一致スル所ナリ)

著作權ノ移轉ト著作物ノ移轉トハ全ク別物ナリ故ニ例ヘハ原稿繪畫彫刻物等ヲ讓渡スモ之ヲ以テ著作權ヲ讓渡ラ伴ハス蓋シ文書圖書ノ原本トシテ有體物ナレハ其讓渡ハ所有權ヲ讓渡ナリ而シテ著作權ハ複製ノ專權ナレハ有體物ノ所有權トハ全ク別物ナリ故ニ文書圖書ノ原本ノ讓受人ハ所有者トシテ其物ノ

使用收益、處分ハ爲シ得ルモ之ヲ複製シテ發行スルコトヲ得ス文書圖書ノ所有者トシテハ自由ニ其物ヲ使用處分スルコトヲ得ルヲ以テ之ヲ公衆ノ展覽ニ供スルモ又ハ之ヲ破棄スルモ總テ自由ナリ然レトモ破棄若クハ汚損シタルモノヲ著作者ノ名ヲ付シテ公衆ノ展覽ニ供スルコトヲ得ス何トナレハ此場合ニハ著作者ノ人格權ノ侵害ト爲レハナリ(アコラス)民法論六八頁、ブーエー著作權論三五八頁抑モ著作權ナル權利ハ自己ノ著作物ヲ複製スルノ專權ニシテ所有權ノ如ク有體物ノ上ニ行ハルル權利ニ非ス故ニ著作物ノ有形ニ顯ハレタル書籍、圖書ノ上ニ有スル權利ハ所有權ナリト雖モ書籍圖書ニ依リテ著作者ノ思想ヲ複製スルノ權利ハ著作權ナリ故ニ所有權ト著作權トハ全ク別物タルコトヲ知ルヲ得ヘシ隨テ著作者ハ著作物ノ原本タル書籍、繪畫、彫刻物ヲ讓渡スルモ之ヲ以テ其著作物ヲ複製スルノ權ヲ讓渡シタルモノト謂フコトヲ得ス此原理ハ著作權ノ性質上自明ノ理ニシテ特ニ法律ノ規定ヲ以テ之ヲ明カニスルヲ要セス故ニ我著作權法ニ於テハ斯ル規定ヲ設ケザリシナリ然レトモ外國ノ立法例ニ於テハ明文ヲ以テ之ヲ明カニシタルモノアリ例ヘハ獨逸美術著作權法第八條、白

耳義著作權法(第一九條)、西班牙著作權法(第九條)、匈牙利著作權法(第六四條)、伊太利著作權法(第一八條)、第二項、墨西哥民法(第一三三條)、那威著作權法(第六條)、瑞典著作權法(第三條)、瑞西著作權法(第五條)ノ如キ是ナリ然レトモ又反對ニ著作物ノ原本ヲ讓渡シタルトキハ著作物複製ノ權モ之ニ伴フトセル立法例ナキニ非ス例ヘハ奧太利著作權法(コロムビア)著作權法ノ如キ是ナリ(註) 奧國著作權法(第十七條) | 學藝的及ヒ音樂的著作物ノ著作權ノ無償讓渡ハ反對ノ契約ナキ以上ハ著作權ノ移轉ヲ包含セス之ニ反シ有償讓渡ノ場合ニ對シ著作權ノ移轉アリタルモノト看做ス但反對ノ事情ノ證明セララルトキニ限リ此限ニ在ラス (註) 同第十八條 | 美術的及ヒ寫真著作物ノ有償及ヒ無償讓渡ハ特約ナキ以上ハ複製權ノ移轉ヲ包含セス (註) コロムビア著作權法(第六十二條) | 畫工又ハ彫刻家カ其著作物ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ複製スルノ專權ヲ留保スルヤ否ヤノ問題ハ一般ニハ消極ニ解釋セラレ特定ノ場合ニハ讓渡契約ニ定メタル約定ニ從フモノトス (註)

佛國著作權法ニ於テハ此點ニ關シ何等ノ明文ナキヲ以テ學者間ニ議論ノ存スル所ナリト雖モ多クノ學者ハ著作物ノ讓渡ハ著作權ノ移轉ニ伴ハストノ説ヲ採ルモノノ如シ「ブローニー」グオーノノ「ア」ガスタム「ビー」ド但千八百四十二年五月二十七日ノ大審院判決例ハ反對ニ決シタリ又著作權保護ニ關スル萬國會議ニ於テモ此原則ヲ確定セントシ佛國ノ「マイヤノル」氏ノ起草シタル著作權法模範法案ニ於テハ「特約」ナキ以上ハ美術著作物ノ讓渡ハ複製權ノ讓渡ヲ伴ハストノ一條ヲ明定シ會議ニ於テ之ヲ可決セリ(千九百年巴里萬國會議報告書此ノ如ク著作權ノ移轉ハ著作物ヲ複製シテ利益ヲ受クル權利ノ移轉ナリ換言スレハ普通財產權ノ移轉ニ外ナラス故ニ其移轉ハ民法財產權ノ移轉ノ原則ニ從フヘキモノナリ而シテ民法ノ原則ニ依レハ物權ノ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其效力ヲ生ス(民法第一七六條)ト雖モ第三者ニ對抗スルニハ不動産ニ關スル物權ニ付テハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲スコトヲ要シ(民法第一七七條)不動産ニ關スル物權ニ付テハ其動産ノ引渡アルコトヲ要シ(民法第一七八條)然ルニ著作權ハ不動産ニモ非ス又動産ニモ非サルカ故ニ民法ノ此規定ヲ直チニ適

用スルコトヲ得ス而シテ若シ著作權ノ移轉ハ單ニ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ效力ヲ生ストシ第三者ニ對スル公示ノ方法ヲ定メザルトキハ第三者ハ不測ノ損害ヲ被ルコトアルヘシ例ヘハ甲カ乙ニ自己ノ著作權ヲ讓渡シ又直チニ之ヲ丙ニ讓渡ストキハ丙ハ其著作權ヲ得ルコト能ハスシテ空シク詐僞ノ犧牲ト爲ルナリ尤モ丙ハ甲ニ對シテ損害ノ賠償ヲ求ムルノ權利アルヘキモ若シ甲ニシテ無資力ナルトキハ丙ハ實際何等ノ賠償ヲモ得ルコト能ハス此ノ如キハ決シテ善意ノ第三者ヲ保護スルノ途ニ非ス然ルニ歐洲諸國ノ立法例ヲ見ルニ何等公示ノ方法ヲ規定セス單ニ當事者ノ意思表示ニ因リテ移轉ノ效力ヲ生スト爲スモノノ如シ獨リ英國合衆國並ニ西班牙ノ著作權法ニ於テノミ登録ノ制アリ千八百四十二年ノ英國著作權法第十一條ニ依レハ著作權ノ讓渡ハ「ステ」レ「シ」ョ「ナ」リス「コ」ム「バ」ニ「ニ」於テ登録ヲ爲スコトヲ要ス其登録ハ「シ」レ「ラ」シ「グ」」ノ手数料ヲ拂フトキハ何人モ閱覽スルコトヲ得又五シル「ラ」シ「グ」」ノ拂フトキハ登録證書ヲ受クルコトヲ得而シテ其登録證書ハ爭アル場合ニハ反對ノ證據ナキ限ハ著作權移轉ノ證據タルコトヲ得合衆國著作權法千八百七十年法律第四

九五五條ニ依リ著作權ノ讓渡ハ書面ヲ以テ爲スコトヲ要シ且契約後六十日  
 内ニ國會ノ圖書館ニ登錄スルコトヲ要ス若シ登錄セザルトキハ取得者ニ對シ  
 效力ナシトス西班牙著作權法施行規則千八百八十年第二十四條ニハ智能權ノ  
 移轉變更ハ登錄ヲ爲スコトヲ要スト又規定アリ此等諸國ノ著作權法ヲ除クノ  
 外ハ著作權移轉ニ關シ何等方式ノ規定ナシ我著作權法ハ前記三箇國ノ立法例  
 ニ倣ヒ著作權ノ移轉ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得  
 ト爲セリ第一五條第三項而シテ其登錄ハ內務省ニ於テ之ヲ取扱フモノトス第  
 一六條(舊法ハ第三條)著權ノ移轉ハ非ニ然ルニ其權利之行使ニ  
 著作權ノ一方面タル財産權ハ所有權等ト同一ノ財産權ナルヲ以テ債權ノ擔保  
 ニ供スルヲ得ルハ勿論ナリ而シテ前述シタル如ク著作權ハ不動産ニモ非ス又  
 動産ニモ非サルヲ以テ著作權ヲ擔保トスル場合ハ民法ノ所謂權利質ナリ(民法  
 第三六二條)而シテ登記ニ關スル規定ハ直チニ民法ノ規定ヲ適用シ得サルヲ以  
 テ我著作權法ニ於テハ著作權ノ質入モ登錄ヲ受タルニ非サレハ第三者ニ對抗  
 スルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ第一五條第三項(舊法ハ第三條)著權ノ移轉ハ非ニ然  
 ルニ其權利之行使ニ

此ノ如ク著作權ノ一方面タル財産權ハ質買讓與及ヒ擔保ノ目的物タルコトヲ  
 得ルカ故ニ債權者ハ此權利ヲ差押フルコトヲ得ルモノナリ然レトモ其差押ヲ  
 行コトヲ得ルハ所謂金錢的權利ニシテ人格的權利ハ差押フルコトヲ得ス著作  
 權法第十七條ニ曰ク「著作權ハ人格的權利ニシテ其行使ハ著者ノ自由ニ依リテ  
 行ハレ得ルモノナリ」但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在リ  
 テ受テタルコトナシ然レモ著作權者ハ其權利ノ行使ニ關シテ著者對シテ  
 債權者ニ對シテハ其權利ノ行使ニ關シテ著者對シテ債權者ニ對シテハ其  
 著作權ハ著作物ノ創作ニ依リテ發生スル權利ナルヲ以テ未發行ノ著作物ト雖  
 モ著作權ノ存スルヤ勿論ナリ然レトモ未發行ノ著作物ハ唯著作者カ創作シタ  
 ルニ止マリ未タ之ヲ公ニスルノ意思ヲ決定シタルモノニ非ス然ルニ著作者ノ  
 意思ニ反シテ之ヲ發行スルハ著作者ノ權利ヲ尊重セザルノ嫌アリトモナラズ  
 學藝美術ヲ發達スル途ニ非ス而シテ著作權ノ差押ハ畢竟之ニ著作物ヲ發  
 行シ之ヲ公衆ニ生スル利益ヲ取得スルノ目的ヲ以テ故ニ若シ差押ヲ許サズキハ  
 債權者ニ未發行ノ著作物ヲ發行スルノ權利ヲ認メザルハカラス債權者ニ此權

利ヲ認ムルトキハ著作權ノ權利ヲ害スル以テ法律ハ未發行ノ著作物ノ著作權ノ差押ヲ禁シタルヲ抑テ著作物ハ著作ノ頭腦ノ生産物ニシテ著作人ノ人格ノ外部ニ顯ハルタルモノナリ著作物ノ原價ハ著作人ノ名譽ニ關スルモノナレハ之ヲ世間ニ公ニスルハ著作人ノ深思熟慮ヲ要ス而シテ其著作物ノ公ニスヘキヤ否ヤヲ判定スルハ著作人ノ獨リ之ヲ能クスヘク他人ハ決定シ得ヘキモノニ非ス換言スレバ著作物ノ發行ヲ決定スル權利ハ所謂思想維持權ニ屬スヘキモノニシテ專屬的權利ナリ故ニ著作ノ事實アリタリト直チニ發行スルコトヲ得ルモノト斷定スルヲ得ス然ルニ債務ノ抵償トシテ著作權ヲ差押ヘ之ヲ就賣ニ付シ其取得者ヲシテ之ヲ公ニスルヲ得セシムルトキハ著作人ノ人格權ヲ害スルニ至ル是レ我著作權法ニ於テ未發行ノ著作物ノ著作權ハ債權者ノ爲メニ差押ヲ受クルコトナシト規定セシ所以ナリ白耳義著作權法第九條ニモ同一ノ規定アリ曰ク「國民ニシテ人ノ自由權利ニ關シテハハローイマハルニ非ズ未發行ノ學藝音樂ノ著作物並ニ發賣若クハ發行ニ準備セラレタル美術著作物ハ常に差押フルコトヲ得サルモノトス」此ノ規定ハ著作權ノ保護ノ目的ヲ示シテ

ヤ等ノ如キ精神の方面ニ於テ十分ナル搜查ヲ爲シ又相當ナル資産ヲ有スルカ否ヤノ如キ財産ノ整否ニ付テ詳細ナル取調ヲ爲シタル上出願書類ヲ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長ハ出願ニ對スル意見ヲ附シ更ニ之ヲ司法大臣ニ提出ス可ク若シ控訴院カ直チニ出願人ヨリ願書ヲ受付ケタルトキハ控訴院長及檢事長ハ前述ノ如キ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出シ司法大臣ハ此ノ如キ取調及意見ニ基テ出願人ノ行狀ヲ判定シ以テ許否ヲ決スルモノトス

第二章 職務ノ開始

年齢滿二十五年以上ニ達シ及第證書ヲ所有スルカ若シタハ受験免除ノ特典ヲ有シ其品行方正ナル者ハ左記ノ手續ヲ經テ公證人トナリ其職務ヲ開始スルコトヲ得可シ

第一 出願書ニ對シテ公證人トシテ其職務ヲ開始スル公證人トラント欲スルモノハ左記ノ書類ヲ裁判所ニ提出セザル可カラズ

公證人規則 公證人タル資格ノ得與 職務ノ開始

(本) 願書ハ次ニ書式ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒタキ希望ト其職務ヲ行ハントスル地トヲ明記セサル可カラス希望ヲ表示スルノ必要ナルハ論ヲ竣タス受持區ノ指定ハ少シク説明ヲ要ス余輩ハ先キニ公證人ノ職務執行地ハ其收入ヲ確保シ相互ノ競争ヲ避ケ以テ其嚴正ヲ維持スル爲メニ住居即チ役場ニ限定セラレ已ムヲ得サル事件ニ付テモ其受持區ニ止マル可ク同一區内ニアルモノト雖モ其住居ハ尙ホ認可町村内ニ限定セララルモノナルヲ説ケリ(第三章 參照)

此ノ如ク一區裁判所ノ管内即チ受持區内ニ於テハ公證人ノ員數ヲ制限シ假令法定數ニ充タサルモ尙ホ司法大臣ハ其必要如何ニ依リ採否ノ專權ヲ有スルカ故ニ公證人タラントスルモノハ其受持區タル可キ場所ヲ指定スルコト極メテ必要ナリ

(書式三) 公證人願書(用紙美濃紙)

族籍戸主嗣子三男兄弟ノ別ニ調査

私儀何府縣何國某區裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付キ御登用被下度試驗及第證書官記卒業證書等ノ寫及品行保證書相添此段奉願候也

現住所

司法大臣 殿

(書式四) 何國某區裁判所管下及何府縣某區裁判所管下某地方裁判所管下又ハ某控訴院管下ノ内何レノ公證人受持區ニ於テ御登用被下度試驗及第證書ノ寫

公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第證書ノ寫

公證人タル資格ノ得喪 職務ノ開始

四七

寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也  
 (ロ) 試験及第證書官記卒業證書又ハ辯護士トシテ登錄シタル旨ノ證明書  
 (ハ) 二名以上ノ成年者カ連署シタル品行保證書  
 (ニ) 試験ニ及第シタルコトヲ要セザル者ニアリテハ其履歷書書式(二)  
 右ノ書類ヲ受付ケタル裁判所長及其上級ノ檢事ハ出願人ノ身上ニ付キ詳細ナ  
 ル取調ヲ爲シ控訴院長及檢事長ハ之ニ意見ヲ附シテ司法大臣ニ提出スルモノ  
 トス

第二 任命

願書及其附屬書類ハ最後ニ司法大臣ニ送致セラル司法大臣ハ此等ノ書類ニ依  
 リ出願人カ法定ノ資格ヲ具備シ且ツ出願ノ手續ニ付キ欠缺ナキコトヲ認メ他  
 ノ一方ニアツテハ志望受持區ニ於テ完員ヲ超過スルコトナキカ否ヤ假令定員  
 ニ不足アリトスルモ之ヲ補充スルノ必要アリヤ否ヤ等ノ實際ノ狀況ヲ照査シ  
 タル上始メテ任命ス任命ハ適任者ヲ採用スルノ形式ニ過キサルナリ而シテ任  
 命ハ其旨ノ辭令書ヲ作製シ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ヲ管轄スル控訴院及

地方裁判所ヲ經由シテ之ヲ本人ニ下付スルニ因リ之ヲ爲スモノトス  
 控訴院及地方裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備ヘ公證人ノ任命アリタルトキハ  
 其本人ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ明記ス可キモノトス  
 第三 任命後ノ手續

出願人ハ任命ニ因ツテ始メテ公證人ノ職ニ就クコトヲ得レトモ其職務ヲ執行  
 スルニハ身元保證金ヲ納付シ印鑑ヲ届出テサル可カラズ  
 (イ) 身元保證金ノ納付

身元保證金ハ公證人ノ職務執行ニ關スル物的擔保ナリ公證人ヲシテ其職務ヲ  
 誠實ニ執行セシメンニハ其違反行爲ニ對スル制裁及其過失ニ對スル責任ヲ定  
 メ之ヲ嚴格ナル監督ノ下ニ置カサル可カラズ故ニ現行規則ニ於テハ違法ノ所  
 爲ニ付テ懲罰處分ヲ規定シ其輕微ナルモノニアリテハ財産の痛苦ヲ與フルモ  
 ノトシ各所爲ノ性質ニ從ヒ金五十圓乃至金三十圓ノ範圍ニ於ケル過料ニ處ス  
 可キモノト爲シ又其職務上ノ過失ニ付テハ之カ爲メニ生シタル損害ハ當該公  
 證人之ヲ賠償ス可キハ論ヲ埃タサルヲ以テ結局此ノ如キ過料及其他ノ賠償ヲ



支拂フ可キ責任ヲ發生シタルトキニ當リ之ヲシテ有名無實ニ歸セザラシムル  
 爲メ其擔保トシテ保證金ヲ納付セシムルノ制度ヲ設ケタリ從テ職務上ノ過失  
 ノ爲メニ損害ヲ加ヘラレタルモノハ該身元保證金ノ上ニ先取特權ヲ有スルモ  
 ノトス  
 身元保證金ノ數額ハ自ラ職務執行ノ繁閑即チ人口ノ多寡ト比例セサル可カラ  
 ス故ニ土地ノ狀況ニ從ヒ司法大臣ノ定ム可キモノトシ司法省令ヲ以テ東京及  
 大阪ニ於テハ金五百圓其他ノ地方ニ於テハ人口ニ依ル可キモノトシ人口二十  
 萬以上アル受持區ハ金四百圓人口二十萬未滿十萬以上アル受持區ハ金三百圓  
 人口十萬ニ滿タサル受持區ハ金二百圓トシ一旦完納シタルトキハ其後ニ於テ  
 區内ノ人口ニ増減アルモ保證金ニ影響ナキモノトシ以テ返付補充ノ煩雜ヲ避  
 ケタリ而シテ此金額ハ現金又ハ一定ノ有價證券ヲ以テ納付スルコトヲ要ス一  
 定ノ有價證券トハ公債證書日本勸業銀行發行勸業債券若クハ日本銀行株券ヲ  
 云ヒ現金ニ相當スル價格アルヲ要件トスルカ故ニ額面ニ於テセシテ市場價  
 格ヲ以テ計算スルヲ適切ナリトスレトモカクセハ市價ニ常ニ一定セズ下落ス

ル毎ニ補充スルノ煩雜ヲ來タシ故ニ專ラ券面額ヲ以テスルノ便利ナルニ如  
 カサルナリ  
 保證金ハ職務執行ノ擔保ナリ擔保ナクシテ之ヲ執行セシムルハ頗ル危險ナリ  
 事言ハサル可カラス從テ公證人ハ其辭令書ヲ受領シタル日ヨリ三十日內ニ保  
 證金ヲ管轄地方裁判所ニ納付ス可キモノトシ納付以前ニアツテハ其職務ノ執  
 行ヲ禁止ス然レトモ此ノ如キハ單ニ擔保ヲ提供セサルニ止マリ公正證書ノ要  
 件ヲ爲スモノニ非サルヲ以テ納付以前ニ作成シタルハトテ其證書ハ尙ホ有效  
 ニ解釋セサル可カラス而シテ三十日ノ期間ヲ經過スルモノヲ納付セザルトキ  
 ハ司法大臣其職ヲ免スルモノトス  
 保證金ハ常ニ法定ノ額ヲ維持スルコトヲ要ス若シ過料ノ徵收損害ノ賠償等其  
 他ノ事故ニ因リ身元保證金ヲ減消シ又ハ保證金ノ少キ受持區ヨリ多キ受持區  
 ニ轉職シタル爲メ保證金ニ不足ヲ生シタルトキハ不足額ヲ補充セサル可カラ  
 ス即チ管轄地方裁判所長ハ公證人ニ對シ保證金ノ補充ヲ命令ス可ク公證人ハ  
 該命令ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ之ヲ納付ス可キ責任アリ而シテ前ニ述

タルカ如ク保證金完納以前ニテワラハ職務ヲ執行ヲ禁止スルカ故ニ補充ノ場合ニ於テモ補充セザル間ハ全ク不完納ト同ナルヲ以テ地方裁判所長ハ其職務ヲ執行ヲ保證金ノ補充アルマテ假ニ停止スルコトヲ得可キ此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申セザル可カラズ若シ公證人カ補充ノ命令ヲ受ケテヨリ六十日ヲ經過シ尙ホ其命令ニ従ハサルトキハ地方裁判所長ハ管轄控訴院ヲ經由シ司法大臣ニ其旨ヲ具申シ併セテ免職ノ處分ヲ請フ可キモノトス此場合ハ身元保證金ヲ納付セザルモノト言フ可キカ故ニ司法大臣ハ當該公證人ヲ免職スルモノトス

此ノ如ク身元保證金ハ法定額ニ於テ常ニ之ヲ維持ス可キモノナルカ故ニ補充セシムルノ必要アルトキハ之カ完納ヲ命スト雖モ之ニ反シ保證金ノ全部又ハ其一部ヲ留保スルノ必要消滅シタルトキハ之ヲ還付ス可キモノトス故ニ公證人ニシテ身元保證金額多キヲ要スル受持區ヨリ其額寡キ受持區ニ轉シタルトキハ既ニ完納シタル保證金中其一部即チ差額ヲ依然保管スルノ必要ナク又公證人カ其職ヲ罷メタルトキハ其保證金全部ヲ留保スルノ必要ナキヲ以テ各場

合ニ從ヒ之ヲ還付セザル可カラズ若シ夫レ公證人ニ死亡失踪又ハ免職轉職等ノ事由ヲ生シタルトキハ本人又ハ其相續人ニ之ヲ還付ス可キヤ論ヲ俟タサルナリ

(四) 印鑑及筆蹟ノ届出

法律ハ公證人ニ課スルニ其職務ノ執行ニ先テ法定ノ役印ヲ作成スルノ義務ヲ以テセリ而シテ職務ヲ執行スルニ際シテハ其書類ニ必ス署名シ且テ捺印セザル可カラズ其作成ノ書類カ公正の性質ヲ有シ民事上多大ノ信憑力ヲ價スルハ全ク公證人ノ署名捺印ニ係リテ存スト言フモ過言ニ非ザルナリ故ニ將來ニ於テ公正書類存立ノ異否ニ付キ紛争等ヲ醸ストキハ主トシテ公證人ノ署名捺印ニ依リ之ヲ決セザル可カラズ從テ職務ヲ執行前ニ於テ豫メ公正人ノ筆蹟及印鑑ヲ徴シオクハ亦相當ナル注意ナリト云フ可シ此理由ニ依リ法律ハ公證人ヲシテ職務執行前ニ其印鑑ニ氏名ヲ手書シテ之ヲ管轄地方裁判所及管轄區裁判所ニ提出ス可キモノトシ以テ裁判官ヲシテ紛争公正書類ノ異否ヲ檢スル便ナラシメタリ

公證人ノ署名捺印ハ身元保證金ト異リ公正書類成立ノ一要件ヲ爲スモノナリ  
 従テ若シ公證人カ職務執行前ニ其届出ヲ爲サザリシトキハ届出ナキ以前ニ於  
 ケル公證行為ハ頗ル不確實ノモノト言ハサル可カラスカカル不確實ナルモノ  
 ニ公正效ヲ有セシムルハ到底事由ノ當ヲ得タルモノニ非サルカ故ニ全ク公正  
 ノ效ナキモノト爲シタリ其保證金完納以前ノ公證行為ト取扱ヲ異ニスルハ署  
 名捺印ハ公證書類ノ成立ニ重大ナル關係ヲ有スルカ故ニシテ殊ニ法ハ此届出  
 ニ付テハ職務執行前ニ爲スコトヲ宣言シ決シテ猶豫期間ヲ付與セザルノ  
 點ヨリ見ルモ公正效トノ關係極メテ密ナルヲ知ルニ足ル可シ  
 此ノ如ク公證人タル資格ヲ有スル者其旨ノ出願ヲ爲シタル後任命ノ形式ヲ經  
 身元保證金ヲ完納シ且ツ印鑑及筆蹟ノ届出ヲ完了シタルトキハ茲ニ始メテ公  
 證人トシテ其職務ノ執行ヲ開始スルコトヲ得可シ

### 第三章 職務ノ終了

公證人ノ職務ハ終身のノモノトス然レトモ之ニ死亡失踪ノ宣告免職辭職轉職

等ノ事實ヲ生シタルトキハ其公證人タル資格ヲ喪失ス可ク又公證人ニシテ  
 他管ノ役場ニ轉シタルトキハ原役場ニ於テハ最早公證行為ヲ爲スコト能ハス  
 又停職セラレタルトキハ其期間公證人トシテ活動ヲ停止セラレレモ職務  
 ノ終了ヲ生ス唯タ停職ノ場合ハ其終了ハ時的ニシテ嚴格ニ言ハハ終了ト云  
 フ可カラス少クトモ他ノ永久的終了ノ事由ト其ニ之ヲ論スルハ聊カ失當ノ嫌  
 ナキニアラサレトモ便宜ノ爲メニ茲ニ併合シテ説明スルコトトカシタリ  
 死亡ハ人格ノ喪失ニシテ其後ニ於テ公證行為ヲ爲スコトハ到底アリ得可カラ  
 ス失踪ノ宣告ハ死亡ヲ推定スルモノニシテ其宣告ハ不在ニ基カサル可カラ  
 然ルニ公正行為ハ役場即チ住所ニ於テ爲ササレハ公正效ヲ生セザル故ニ失踪  
 者カ適法ナル公正行為ヲ行フコトモ亦想像スル能ハス免職ハ懲戒罰ノ極限ニ  
 シテ停職ノ處分三回ニ及ヒ又ハ身元保證金ヲ完納セズ又ハ刑法上ノ宣告ニ因リ  
 重罪ノ刑ニ處セラレ公權ヲ剝奪セラレ或ハ禁錮刑ニ處セラレ公權ヲ停止セラ  
 レタルトキハ何レモ其職ヲ免セザル從テ其後ニアリテハ有效ニ公證行為ヲ行  
 フコトヲ得ス出願ニ依リテ任命セラレタルモノハ任意ニ其職ヲ辭スルコトヲ

得可ク辭職アリタルトキハ全ク其職務ト關係ナキニ至ル共ニトシテ公證人カ他ノ職務ニ轉シタルトキハ當然原職ヲ去ラザル可カラス又公證人ハ受持區ニ一區裁判所ノ管轄地ヲ以テ限度トスルカ故ニ他管轄役場ニ轉シタルトキハ原役場ニ於テ公證行爲ヲ爲スコトヲ得ヌ何トナレハ若シ之ヲ許シ其結果トシテ一受持區ニシテ少クモ二箇區裁判所ノ管轄地ニ涉ルモノヲ生シ前述ノ原則ヲ破ルニ至レバナリ然レトモ同區内ニ轉居ス同時ニ役場ノ移轉ヲ生スト雖モ此ノ如キハ職務終了ノ原因タラサルヤ明カナリ何トナレハ當役場ニ於ケル事務ハ新役場ニ於テモ之ヲ取扱フコトヲ得可ク又後任者ヲ任命ス可キ場合ニモ非ナレハナリ停職ハ一ラ懲戒罰ニシテ一定ノ期間ハ公證人タル資格ヲ喪失シ其活動力ヲ失ハシムル效力ヲ生ス從テ其期間ニ於テ公證行爲ヲ爲スモ無効ナリ假令依囑ノ當事者カ其無能力ヲ知リテ向ホ依囑シタルトキト雖モ其無効タルヤ論ラ埃タヌ何レモ職務終了ノ原因タリ

茲ニ注意ス可キハ懲戒處分ハ民事裁判所ノ管轄スル所ニシテ假令免職又ハ停職ニ該ル行爲アリトスルモ其審問中ニアラザルハ公證人ハ依然トシテ公證行爲

ヲ爲シ得可キコト是ナリ何トナレハ果シテ停職又ハ免職ニ該ルヤ否ヤハ管轄裁判所ノ判定ヲ埃テ始メテ決シ得可キモノナレハナリ然レトモ其處分ノ告知アリタルトキハ直チニ其活動力ヲ杜絶セシムルカ故ニ爾後有效ニ其職務ヲ行フコトヲ得サルナリ

#### 第四章 職務ノ受繼

公證人ハ一面ニ於テ其職務ヲ執行シ他ノ一面ニ於テハ職務ニ從屬スル公正書類ヲ保管スル義務ヲ有ス故ニ職務終了ノ原因アレハ一方ニハ事務ノ處分ヲ爲シ他ノ一方ニ於テハ書類ヲ引繼カサル可カラス

(一) 事務ノ處分

人民ノ依囑ハ一日モ曠シクセシム可カラズ或役場ニ於テ公證人カ其活動力ヲ喪失シタルトキニ當リ之ヲ其儘ニ放任スルトキハ公益ヲ害スルコト亦察シトセス此故ニ公證人ニ失格ノ原因アレハ直ニ後任者ヲ任命シ後任者ノ任命ナキカ又ハ公證人ハ停職セラレタル場合ニテラハ近隣ノ公證人ニ兼任ヲ命ス後

任者又ハ兼任者ハ自己ノ名ヲ以テ其役場ニ於テ一切ノ公證事務ヲ行フモノナ  
 リト雖モ唯タ本任者又ハ前任者ノ作成シタル原本ニ依リ正本又ハ謄本ヲ下付  
 スルトキハ之ニ後任者又ハ兼任者タル旨ヲ附記シテ其責任ヲ明カニスルコト  
 ヲ要ス停職ノ場合ニ於テ後任者ヲ命セザルハ停職者ハ期間満了後復任スルコ  
 ト明カニ豫想シ得ルヲ以テ後任者アリトセハ其期ニ及ンテ二人ノ公證人ノ並  
 立ヲ見ルシ不都合ヲ生スレハナリ

司法大臣ハ情況ニ依リ役場ヲ廢止スルコトヲ得可シ役場ノ廢止アリタルトキ  
 ハ原役場ニ於ケル事務ハ近隣ノ公證人ニ併合セラルルモノトス

兼任公證人ハ其本任事務ハ勿論兼任事務ニ付キ公證行為ヲ爲ス義務アリ然レ  
 トモ道般ノ事務ハ本任者カ停職セラレタル場合ノ外必スシモ之ヲ兼任役場ニ  
 於テ執行セザル可カラサル責任ナシ何トナレハ兼任ノ規定ハ單ニ公證事務ノ  
 處分ニ止マリ其執行場所ニ影響ヲ與フルモノニアラス換言スレハ兼任者ハ後  
 任者ノ任命アルマテ一時其職務ヲ取扱フコトヲ定メタルニ過キズシテ其事務  
 ハ兼任ナルカ故ニ自己ノ役場ニ於テ爲サスレテ兼任役場ニ於テラス可レトマラ

言フニ非サルナリ若シ然ラスシテ自己ノ本然ノ職務ハ本件役場ニ於テ之ヲ行  
 ヒ兼任事務ハ兼任役場ニ於テ之ヲ行フ可キモノトセンカ少クトモ兼任役場ニ  
 滞在セザル可カラサル期間ヲ想像シ得可ク從テ本任役場ニ於テ職務ヲ行フコ  
 ト能ハサル場合ヲ豫想シ得可キカ故ニ其期間ハ近隣公證人ニ代理ヲ囑託セザ  
 ル可カラサル結果第十一條參照ヲ生ス此ノ如キ義務ノ爲メニ却テ他人ヲシテ  
 本務ヲ代理セシムルカ如キ事態ハ之レ豈ニ法ノ精神ナランヤ殊ニ法律カ兼任  
 ヲ近隣ノ公證人ニ命スル點ヨリ觀察スルモ若シ之ヲ遠隔ナル公證人ニ兼任セ  
 シムルトキハ人民カ依屬等ノ爲メ其役場ニ赴クニ當リ不便大ナルヲ避クル爲  
 メ此ノ如ク規定シタルモノナルヲ知ル可シ若シ又一步ヲ讓リテ第十一條ノ代  
 理規定ハ本間ノ場合ニ適用セラレ可キモノニ非ラストスルモ尙ホ法ハ一方ニ  
 於テハ公證人ノ役場ハ住居ト一致スヘキコトヲ原則トシテ定メ他方ニ於テハ  
 特ニ本任者カ停職セラレタルトキニハ兼任者ハ兼任役場ニ於テ其職務ヲ行  
 フヘキコト第六十條第二項參照ヲ宣言スルニ係ハラヌ其他ノ兼任ニアリテハ  
 職務執行ノ場所ニ付キ至ク沈黙スルカ故ニ是等ヲ綜合スレハ兼任者カ前掲ノ

如キ責任ヲ有セタルコトヲ知ルニ足ル可シ其職ヲ執行スルハ其職務ノ範圍ニ於テハ公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ單ニ停職者ノ假攝タルニ止テリ他ノ兼任ノ場合ト事情相同シカラス即チ停職ハ公證人タル活動ヲ一定ノ期間停止スルニ止マリ詳言スレハ其役場ニ於テ完全ナル公證人ノ本體ハ依然存續シ且ツ其公證人ハ一定ノ期間終了後當然且ツ必然ニ其活動力ヲ回復ス可キコト明カナルニ唯タ一時公證行爲ヲ爲ス能ハサルノミ從テ其役場モ亦存續スルヤ論ヲ埃タサルカ故ニ他ノ兼任ノ場合ト大ニ其趣ヲ異ニス於是乎兼任者ハ一ノ場合ニ於テハ前述ノ如ク兼任役場ニアリテ職務ヲ執行ス可キ責任ナキト共ニ他停職ノ場合ニ於テハ原役場ニアツテ職務ヲ得可キ狀態ニアリ故ニ法ハ此場合ニ於ケル兼任ハ停職公證人ニ代ハリ其作用ノミヲ爲サシムルノ趣旨ヨリ殊ニ人民ノ依頼及事務ノ引繼等利便ヲ計ルカ爲メニ一人一役場ノ原則ニ除外例ヲ設ケ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ執行ス可キコトヲ兼任者ニ命シタリ且ツ其兼任ニ一言注意ス可キハ公證人カ已ムヲ得タル事故アリテ職務ノ執行ヲ妨ケラレルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ得可キコト第百十條ニ定メラレタリ

算定スルキモノトス 運費ニ付テハ手続料ハ其ノ額ニ對シテ用ニ對シテ算定スルキモノトス 右ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖モ引渡スヘキ物ナキトキハ二十五錢ノ手數料ヲ受クヘキナリ

若シ債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡スヘキ場合ニ於テハ特定ノ動産又ハ代替物ノ場合ト異リ職務時間三時間以内迄ハ手數料ヲ五十錢ト定メ職務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎十五錢ヲ加フ但シ其職務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定スヘキモノトス此場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖モ船舶アラザルトキハ前述手數料ノ半額即チ二十五錢ヲ受クヘキモノトス

以上第二項有體物ノ差押假差押ニ付テノ手數料第三項(金錢ノ支拂ヲ目的トセタル債權ニ付テノ強制執行ニ關シテ)ノ手數料ノ説明ヲ終ルニ臨ミ注意スヘキ二箇ノ例外アリ即チ

- (一) 執達吏執行行爲ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十一條第一號乃至第四號ノ書類ヲ提出シタルカ爲メニ強制執行ヲ停止セラレ

タル場合若クハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニヨリ強制執行ノ委任終了シタルトキハ總テ第二項及第三項ニ於テ說明セシ一定ノ手数料額ノ十分ノ三ヲ受クヘキノミ

(二) 競速更執行爲メ爲スルキ場所ニ臨ミタル後右(一)ニ述ベタル同一理由ニヨリ強制執行ノ委任終了シタルトキハ總テ第二項及第三項ニ於テ説明セシ一定ノ手数料額ノ半額ヲ受クヘキノトス

以上二箇ノ例外ノ場合ハ實際上競速更ノ執行行爲ハ此レヲ爲スニ所ナク爲メニ委任ヲ與ヘタル債権者ニ對シ何等ノ實益ヲ供セスト雖モ競速更ハ此レカ爲メニ多少ノ手数料要シタル事明カナルヲ以テ之ニ對シテ相當ノ手数料ヲ與フルハ至當ナリト立法者ノ思考セシニ因ルナリ

第三項及第四項ノ規定ハ正當ノ債権者ニ對シテハ不利益ノ虞ヲ與ヘズ

**第四項 動産不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料**

動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ但シ競賣ニ依リ得

タル金額執行スヘキ債権額ニ超過スルトキハ其債権額ヲ以テ競賣金額トス

(三) 競賣金額

手数料

(一) 五十圓マテ 手数料額 六十錢

(二) 五十圓マテ超過スル者 五十圓以下ノ部分 五十錢

(三) 五十圓マテ超過スル者 五十圓以上ノ部分 其超過ノ部分ノ百分ノ五

(四) 五百圓マテ 手数料額 二百五十錢

(五) 五百圓マテ超過スル者 五百圓以下ノ部分 二百五十錢

(六) 五百圓マテ超過スル者 五百圓以上ノ部分 其超過ノ部分ノ百分ノ五

競賣法ノ定ムル所ニヨリ競速更カ競賣ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テモ其手数料ハ此比例ニ從フヘキノトス

競速更執行行爲ヲ爲スヘキ場所ニ臨マテ以前ニ民事訴訟法第五百五十條第一號乃至第四號ニ定ムル書類ヲ提出シタルカ爲メニ強制執行力停止セラレタル場合若クハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡

ニヨリ強制執行ノ委任終了シタルトキハ本項ノ場合ニ於テハ其モトノ金額ノ如何ニ係ラス總テ手数料ヲ三十錢トス若シ執達吏カ執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後ナルトキハ其手数料ヲ五十錢トスニ與テ強執行ノ場合ニ於ケル以上第二項乃至第四項ニ於テ説明セシ所ハ總テ強制執行ニ關シテ執達吏ノ受クヘキ手数料ノ額ヲ定ムル標準ヲ示セシナリ而シテ強制執行ノ場合ニ於ケル手数料ハ執行行為ニ關スル總テノ行為ニ對スル手数料ヲ包含スルカ故ニ左ニ掲クル行為ニ付テハ特別ニ手数料ヲ受ケル事能ハサルナリ即チ

(一) 警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サシムルコト  
 (二) 執行行為ニ關シテ催促其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類ノ送達ヲナスコト  
 (三) 記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スコト  
 (四) 支拂其他ノ拾付差押金、錢及賣却金ヲ受取り交付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ又ハ差押物ヲ還付スルコト

(五) 競賣ノ公告ヲナスコト

手達律

### 第五項 告知及催告ノ手数料

強制執行ニ關セタル告知及催告ヲ爲ストキハ執達吏ハ手数料トシテ十錢ヲ受クヘキモノナリ

### 第六項 拒絕證書作成ノ手数料

執達吏拒絕證書ヲ作成シタルトキハ其手数料トシテ十錢ヲ受ク但シ拒絕者ノ營業場又ハ住居ノ間合ヲ拒絕證書ヲ作成シタルトキハ其手数料トシテ二十錢ヲ受クヘキモノトス

### 第二款 立替金

執達吏ハ立替金トシテ左ノ費用ヲ受ク即チ一ハ其圖書マシメシモノイテ

(一) 書記料 書記料ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ受ク  
 (イ) 法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記録中ニ存スル書類ノ際



- 本ヲ作リタルトキ但シ法律ニヨリ交付スヘキ送達證書ノ原本ハ此限ニア  
 ラズ  
 (ハ) 差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタルトキ  
 右ノ場合ニ於テ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金二錢五厘ノ割合トス  
 但シ十二行ニ滿タサルモ半枚ト看做シテ算定ス  
 (二) 郵便料電信料  
 (三) 公告料  
 (四) 證人鑑定人ノ手當 證人ニ支給スヘキ日當ハ二十錢以下鑑定人ニ支給ス  
 ヘキ日當ハ五十錢以下トシ執達吏土地ノ情況ニ從ヒ之ヲ支給シ若シ一里以上  
 ノ地ヨリ呼出シタル時ハ後ノ(十)ニ説明スル所ノ旅費規定ニ準シテ旅費ヲ支給  
 スヘキナリ  
 (五) 職工役夫ノ手當  
 (六) 有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復スル爲メノ費用

- (七) 人及物ノ送致費用  
 (八) 物ノ保存並監視ノ費用  
 (九) 果實收穫ノ費用  
 (十) 旅費  
 每二十錢以下ノ旅費ヲ受ケ但シ一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス而シ  
 テ右旅費ノ額ハ控訴院長ノ認可ヲ經テ各地方裁判所ニ於テ所長之レヲ定ムル  
 モノトス

第十章 委任授受ノ體様

委任者又ハ裁判所書記ヨリ職務施行ニ關スル書類又執達吏ニ渡シ口頭ヲ以テ  
 委任シタル時ハ其委任ハ執達吏ラシテ其職務ヲ施行セシムルニ十分ナル效力  
 ヲ有スルモノトス  
 裁判所又ハ檢事局ヨリ命スル事件ニ付テハ裁判所書記ハ之ヲ執達吏ニ委任ス  
 ル權アルモノナリ而シテ裁判所書記ハ執達吏ニ委任ヲナメ手續ハ直チニ執行

スルヲ要スル委任ニ付テハ之ヲ執達吏ニ送付シ其他ノ委任ニ關シハキ書類ニ書類ヲ差入ルルヲ以テ之ヲオキ書類ニ鍵封書記執達吏各ニ個封持ツベシトス而シテ書類ニ委任ニ關スル書類ヲ差入ルル爲メ書記課中ニ之ヲ設クヘキモ少トスルニ關シハ其委任ノ種類ニ依リテ其封封ノ方法ニ依リテ之ヲ設クヘキカラス(即チ送達送付強制執行執行費用徴收事件特別ノ官ノ委任ノ如シ此ノ如ク委任ニ關スル書類ヲ書類ニ差入レアルトキハ口頭ヲ以テ委任セラレタルト同一ノ效力アルモノトス)

執達吏ノ定リタル時間ニ書記課ニ出頭シ且ツ求アリタルトキハ委任ノ取扱ニ付キ細報ヲ爲シ新委任ニ付キ遺漏不完全ノコトアルトキハ書記ニ質問ヲ爲シ以テ過誤ナキ様注意セサルヘカラス以上ノ如ク委任ノ種類ニ依リテ之ヲ設クヘキ元來書記ト執達吏トノ委任授受ハ口頭ヲ以テナスヘキモノナルヲ以テ書面ヲ以テ之ヲ設スルヲ要セス但シ若シ之ヲ必要トスルトキハ執達吏委任簿ヲ作成セサルヘカラス而シテ此委任簿ヲ用フルトキハ書記ハ委任書類ニ其帳簿ヲ添

ヘ書面ニ挿入シ置クヲ要スル上ノ式(式)ニ依リテ書記ニ委任ノ取扱ニ付キ細報ヲ爲シ新委任ニ付キ遺漏不完全ノコトアルトキハ書記ニ質問ヲ爲シ以テ過誤ナキ様注意セサルヘカラス以上ノ如ク委任ノ種類ニ依リテ之ヲ設クヘキ元來書記ト執達吏トノ委任授受ハ口頭ヲ以テナスヘキモノナルヲ以テ書面ヲ以テ之ヲ設スルヲ要セス但シ若シ之ヲ必要トスルトキハ執達吏委任簿ヲ作成セサルヘカラス而シテ此委任簿ヲ用フルトキハ書記ハ委任書類ニ其帳簿ヲ添

### 第十一章 執達吏ノ執務時日

執達吏ノ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ判事又ハ檢事ノ許可アルニ非レハ其職務ヲ施行スルコトヲ得サルモノトス而シテ此許可ノ命令ハ職務施行ノ際之ヲ示シ又此職務施行ニ付キ作ルヘキ證書中ニ其旨ヲ記入シ又書類ヲ送達スルトキハ其命令ノ原本ヲ添附スヘキモノトス而シテ此場合ニ所謂一般ノ祝祭日ニ付テハ稍キ疑ナキ能ハス即チ一般ノ祝祭日ト云フ以上ノ唯一地方ニ限ル祝祭日ハ此中ニ合ヤタル事明白ナリト雖モ單ニ之レヲ曆ニ記載シ一般官廳ノ事務ヲ執ラサル國祭日ノミト解スルニキム非ス即チ臨時ニ例ハ儀禮式日ノ爲メ祝賀ヲ爲メ國民全般ノ業務ヲ執ラサル日ノ如キ國民全般ニ行キ渡ル祝祭日ナリト解セサルヘカラス但シ或人ノ解釋ノ如ク此中ニ一地方ノ祝祭日ヲ含ムモ



検事局ニ報告セザルハカラス蓋シ此ノ如キ送達證書其期日又ハ期間ニ際シ  
 送達シ又ハ其期日若シタハ期間内ニ送達ヲ施行スル能ハサル旨ヲ以テ送達シタ  
 其時日ヲ經過シ之ヲ委任者又ハ命令ヲ爲シタル裁判所検事局等ニ報告セザル  
 時ハ委任者裁判所検事局等ニ於テ爲テヘキ手續ヲ爲ス能ハス爲テ事件ノ  
 進行ヲ遅延セシムル等種種ノ不都合ヲ生スヘキヲ以テ執達吏ハ此場合ニ上述  
 ノ手續ヲ爲ササルヘカラザルナリ其送達ヲ爲ス能ハサル事トテ委任者裁判所  
 又ハ検事局ニ報告スル報告書ノ雛形左ノ如シ交付シ其裁量裁量高ノ旨ニ裁量

記録號 受送達者	前記事由ニ依リ送達履行爲ス能ハス候條送達書類相添ヘ此段及報告候也 交付明治三十年 月 日 何區裁判所執達吏 何裁判所御中
-------------	--

次ニ送達ハ書面ノ趣旨ヲ他人ニ通知スルヲ目的ト爲スモノナレハ其送達スヘ  
 キ書類ノ趣旨及種類ニ由リテ其手續ヲ異ニスヘキモノニ非ス換言スレバ送  
 達ノ手續ハ民事事件ニ關スル送達ナルト刑事事件ニ關スル送達ナルト非訟事  
 件ニ關スル送達ナルトヨリ間ニ皆同一手續ヲヨリテ施行セラルヘキモノナリ

第二款 民事事件ニ關スル送達

民事訴訟法上民事事件ニ關スル送達ハ概括シテ之ヲ三種トナスコトヲ得即チ  
 (イ)裁判所書記ノ干與スル送達 (ロ)裁判長ノ囑託ニヨル送達 (ハ)公示送達之ナ  
 リ而シテ裁判所書記ノ干與スル送達ハ更ニ之ヲ分チテ執達吏ニヨル送達及ヒ  
 郵便ニ由リテ爲ス送達並ニ郵便ニ付シテ爲ス送達ト三種ト爲テマツテ得而シ  
 テ茲ニ述ヘントスル所ノ送達ハ即裁判所書記ノ干與スル送達中ノ執達吏ニヨ  
 ルヘキ送達ヲ言フナリ而シテ前記三種類ノ送達中ニ於テハ其手續ハ各異ナリ  
 執達吏カ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法上之ヲ送達吏ト稱ス而シテ執達  
 吏ヲシテ送達ヲ爲サシムルト郵便ニヨリテ送達ヲ爲スルモノトハ全ク裁判所

書記ノ自由選擇ニ任ズルモノニシテ實際上ハ其遠隔ノ土地ニハ送達ヲ爲スル  
 場合ハ主トシテ郵便ニ由リ送達ヲ爲セリ次ニ郵便ニ付シテ爲ス送達ハ法律  
 ニ規定シアル場合民事訴訟法第四百十三條ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト  
 ス茲ニ注意スヘキハ民事事件ニ關スル送達ハ常ニ當事者ヨリ直接ニ執達吏ニ  
 其委任ヲ爲スモノニ非スシテ裁判所書記ヲ經テ之ヲ爲スヘキモノトス從テ送  
 達ノ爲ニ執達吏ノ受クヘキ手数料ハ當事者自ラ直接ニ執達吏ニ豫納シオクヘ  
 キモノトス若シ豫納ヲ爲サザリシ時ハ裁判所書記ハ其送達スヘキ書類ヲ執達  
 吏ニ交付スルト同時ニ其執達吏ニ當事者ヨリ直接ニ之ニ對スル手数料ヲ受取  
 ルヘキコトヲ命セサルヘカラス

期日若クハ期間ニ關係ヲ有スル書類ヲ送達シタルトキ其送達證書ヲ委任者裁  
 判所檢事局ヘ交付スル事ニ關スル一般ノ原則ハ總說ノ部ニ於テ既ニ述ヘタル  
 所ナルカ其送達ヲ爲スニ當リテ書類ヲ受取りタル時ト之ヲ送達スル間ノ時間  
 ニ付テモ一定ノ制限ヲ定ム即チ民事事件ニ關スル送達ニ付テハ執達吏ハ送達  
 ヲナスヘキ書類ヲ受取りテヨリ二十四時間内ニ送達ヲナササル可カラス其任

所地以外ニ送達ヲナスヘキ時ト雖モ遅クモ三日ヲ過ス可カラズ但シ土地ノ遠  
 隔等其ノ事情ニヨリ別段ノ時日指定シアルトキハ此限ニアラス又日曜日及  
 一般ノ祝祭日ハ右ノ日數ニ算入セザルモノトス爾レ其外ハ其日數ニハ  
 執達吏ハ送達ヲ爲ス以前ニ充分施行上ノ準備ヲナシ障礙若クハ延滞ヲ生ズル  
 事且送達ノ效力ヲ害セザル事ニ注意シ殊ニ(イ)書類ニ署名捺印アル事(ロ)  
 認證ヲ要スル原本ニ認證アル事(ハ)原本ハ必要ナル員數ヲ具備スル事(ニ)否  
 (一)呼出狀ニハ期日及場所ヲ掲ケアル事(イ)否(ロ)調査シ若シ欠缺アル場合ニ於テ  
 執達吏適宜ニ補充シ得ヘキモノナルトキハ自ラ之ヲ補ハサル可カラス  
 執達吏ガ送達ヲ爲ス場合ニ付テハ送達ノ場所及ヒ時ニ付キ法律ニ於テ特別ノ  
 規定ヲ設ケタリ即チ(イ)受取ル書類ニ關シテ(ロ)送達ノ式(ハ)送達ノ書類  
 (一)執達吏ハ一般職務施行ノ場合ニ受クヘキ時ニ關スル制限ヲ此場合ニ於テ  
 受クルナリ即チ日曜日一般ノ祝祭日及ヒ夜間ニハ執達吏ノ爲ス可キ送達ハ  
 裁判官ノ許可ヲ得ルトキニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得ヘキノミ而シテ其許可  
 ハ受訴裁判所ノ判事長又ハ送達ヲナス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事之ヲ

與之又は受命判事又は受託判事ヲ完結スル事件ニ付テ其判事之ヲ與ルル  
 右ノ許可ノ命令ニ認證シテ附屬本ヲ以テ送達スルニ送達スルニ當リ其書類ノ其書類  
 ノ送達書類ノ受領者ニ交付セザルヘカラス若シ以上ノ手續ニ違反シテ送達ヲ  
 ナシタルトキム受領者カ之ヲ受取リタル時ニ限り效力ヲ生ス蓋シ送達ハ書類  
 ノ交付ヲ確的ナラシムル方法ニ過キテ送達ヲ受クヘキ者ニ於テ手續ノ違  
 法ナルニ拘ラズ之ヲ受領シタルトキム常ニ其送達ハ有效ナルモノナリ  
 (二)送達ノ場所ハ原則トシテ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ヒタル場所ヲ以テ定  
 ムサルヘカラス而シテ其出會ヒタル場所ノ何レノ地タルキハ問ハサルナリ然  
 レトモ送達ヲ受クヘキ者カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキム其住居又ハ  
 事務所以外ノ場所ニ於テ送達ヲ拒ム事ヲ得ベシ又公又ハ私ノ法人及ヒ其資格  
 ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラレル事ヲ得ル會社又ハ社團ノ法律上代理人首長若クハ  
 業務擔當者ハ特別ノ事務所ヲ有スル場合ニ於テハ其事務所以外ニ於テ送達ヲ  
 拒ムコトヲ得然レトモ此等ノ者カ受取ヲ拒マナリシ場合ニ於テハ(一)ニ述ヘタ

ルト同一理由ニヨリ此制限ニ反シテ爲シタル送達ハ其效力ヲ生スルモノトス  
 又送達ハ原則トシテ之ヲ受クヘキ本人ニ爲ササルヘカラス然レトモ或場合ニ  
 於テハ一定ノ能力ヲ有セザルノ結果トシテ送達ヲ受クヘキ本人カ送達ノ受領  
 者タルコトヲ得ザルコトアリ又或場合ニ於テハ送達ヲ受クヘキ本人カ其境遇  
 上直接他人ニ應接スルコトヲ得ザルコトアリ此場合ハ本人カ直接送達ノ受領  
 者タル事ヲ得ス此ノ如キ場合ニ於テハ法律ハ特ニ規定ヲ設ケテ本人以外ノ者  
 ニ送達ヲ爲スヘキ事ヲ命セリ其場合ハ即チ  
 (一)訴訟能力ヲ有セザル原告又ハ被告ニ對スル送達ハ其法律上ノ代理人ニ之  
 ヲ爲スヘキナリ又公私法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘララルコトヲ得ル  
 會社又ハ社團ハ皆其性質ニ於テ行爲能力ヲ有セザルモノナレハ此等ノ法人等  
 ニ對スル送達ハ其法人社團等ノ代表者ナル首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲スヘ  
 キナリ但シ數人ノ首長又ハ事務擔當者アル場合ニ於テハ其何レニ送達ヲナス  
 ヘキヤ疑アルヲ以テ法律ハ特ニ其中ノ一人ニ之ヲ爲セハ足ルト規定セリ  
 (二)豫備後備ノ軍籍ニ非ル下士以下ノ軍人軍屬ハ其境遇上直接送達ヲ受タル

ニ適キテ之ヲ以テ法律ハ特ニ其所屬長官又ハ隊長ニ送達ヲ爲スルモ其定メ  
 因人ニ付ラモ同一理由特ニ初監獄署ノ首長ニ送達ヲ爲スルモ其定メ  
 執達吏カ送達ヲナシテ其場所於テ其受取人ニ出會ハサル時キハ送達ヲ實施  
 スル能ハサル結果ヲ生ラセ法律ハ此場合ニ付テ特別ノ規定ヲ設ケタリ所謂  
 補充送達ニ關スル規定即チ之レナリ  
 (一)住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ  
 先ツ其事務所舖其他營業場ニ至ルベシ若シ此事務所ニ於テ本人ニ出會ハザ  
 ルトキハ送達ハ其事務所ニアル番頭手代職工其他ノ營業使用人又ハ筆生ニ書  
 面ヲ交付シテ之ヲナス事ヲ得ヘシ又公私ノ法人又ハ其資格ニ於テ訴訟ヲナス  
 コトヲ得ル社團ニ對シテ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テ法律上代理人首長又ハ業  
 務擔當者ニ其事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者ニ差聞アリタルトキハ事務  
 所ニアル他ノ役員又ハ雇人ニ書面ヲ交付シテ送達ヲナスコトヲ得ルモノトス  
 蓋シ此等ノ者ニ交付シタルトキハ其真正ノ受取人ノ手ニ入ルヘキ事ヲ豫想シ  
 タルカ爲ナリ

但シ此等ノ場合ニ於テ營業使用人又ハ事務所ノ役員在ラサル等ニヨリ前述ノ  
 手續ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ其本人又ハ法律上代理人首長又ハ  
 業務擔當者ノ住居ニ到ルベシ若シ其住居ニ於テ出會ハサラシトキハ次ニ説明  
 スル手續ニヨルヘキナリ

(二)執達吏カ送達ヲ爲スヘキ者ノ住居ニ於テ之ニ出會ハサルトキハ成長シタ  
 ル同居ノ親族又ハ雇人ニ書面ヲ交付シテ送達ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ此ニ  
 所謂成長シタルトハ成年者以上ノ者ノ指スル非スルハ未成年者ト雖モ尙  
 ホ之ヲ受クルノ資格アリト斷ゼサルヘカラス之レ實際上ノ便宜ニ協フモノニ  
 シテ又立法ノ趣旨モ茲ニ存セシヤ明ナリ而シテ親族トハ民法第七百二十五條  
 ニ規定スル親族ナリト解セサルヘカラス即チ六親等内ノ血族配偶者及ヒ三親  
 等内ノ姻族ヲ云フ事也  
 以上説明スル手續ヲ盡シテ尙ホ送達ヲ爲スル能ハサル時キハ執達吏ハ其交  
 付スヘキ書類ヲ其地ノ市町村長ニ預置キ送達ヲ告知書ヲ作具シテ住居ノ戸ニ  
 貼附シ且ツ近隣ニ住居スル者二人ニ書類ヲ預置キタル旨ヲ告知シ且ツ本決ニ速

カニ通知スヘキ事ヲ囑託シ置ク事ニヨリテ送達ノ效力ヲ生ズ之レ蓋シ執達吏  
カ此等ノ方法ニヨリテ書面ヲ預入ヲ爲シタル場合ニ於テ此ノ書面ヲ受取人  
ノ手ニ入ルヘキモノト豫想シ得ルヲ以テオノ次ニ送達告知書ノ雛形ヲ示シテ  
其説明ニ換フヘシ(括弧内ハ其場合ニ應シテ記入スヘキヲ例示シタルモノ)

送達告知書

一 (呼出狀)

一 (何某ヨリ何某ニ對スル何々事件ニ關スル呼出狀)

右ハ(何某ヨリ何某ニ對スル何々事件ニ關スル呼出狀)何市長ニ預置候條達ニ受  
取可申事

明治 年 月 日

某區裁判所

(何某) 殿

執達吏カ右ニ説明スル場合ノ送達ヲナス場合ニ於テハ執達吏ハ先ツ送達ヲナ  
スニ當リテ之ヲ爲サントスル住居若クハ事務所ハ全ク受取本人ノ住居若クハ  
事務所ナルコト及ヒ送達ノ際ニ應對スル者ハ全ク適當ノ人ニ相違ナキコトヲ  
確メタル後以上説明シタル手續ヲナササルヘカラス又執達吏カ受取本人以外  
ノ者ニ送達書ヲ交付シタルトキニハ其者ニ其書類ヲ速ニ本人ニ交付スヘキ義  
務アル旨ヲ告知セサルヘカラス

送達ヲ受クヘキモノハ正當ノ手續ヲ經テ送達ヲナス場合ニ於テハ受取ヲ拒ム  
コトヲ得サルモノトス然ルニ若シ受取人カ正當ノ理由(日曜日大祭日又ハ夜間  
ノ送達ノ場合等ニ此レヲ理由トスルトキ)ナクシテ受取ヲ拒ミタルトキハ執達  
吏ハ送達スヘキ書面ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ書面  
ノ差置ニヨリテ送達ノ效果ヲ生ズルモノトス

執達吏カ送達ヲ爲シタルトキハ送達證書ヲ作リテ送達ニ關スル事項ヲ明確ニ  
記載スルヲ要ス即チ送達ノ場所年月日方法及ヒ受取人ノ受取書並ニ執達吏ノ  
署名捺印ヲ具備スル書面ヲ作製セザルヘカラス而シテ此送達證書ヲ提出期間



ニ付テハ前款ニ於テ送タル通則ニ從ヒ期日期間ニ關係ツ有スル書類ノ送達ナルトキハ其期日期間ノ滿了前ニ裁判所書記ニ差出スルシ其他ノ書類ノ送達ノ時ハ遲滞ナク之ヲ裁判所書記ニ差出セハ足ル次ニ送達證書ノ雛形ヲ示サン

一金五錢 手数料  
一銀 旅費

職簿第 號

送達證書		裁判所	受取人ノ署名 捺印シ能ハ 指シテ又ハ ヘ其事由トキ
類	原 告	記録號	送達ノ年月日 明治 年 月 日 午前 時 分
書	被告	右當事者間ノ事件ニ關シ明治三十一年 月 日 午前 時 分	送達ノ場所
送	證人トシテ何地方裁判所民事法廷ニ出頭スヘキ呼出狀	送達ノ場所	送達ノ年月日 明治 年 月 日 午前 時 分
達	受送者	送達ノ場所	送達ノ年月日 明治 年 月 日 午前 時 分
書	右ノ通達送達施行候也	送達ノ場所	送達ノ年月日 明治 年 月 日 午前 時 分
類	明治三十年 月 日	送達ノ場所	送達ノ年月日 明治 年 月 日 午前 時 分
書	何區裁判所執達吏	送達ノ場所	送達ノ年月日 明治 年 月 日 午前 時 分

第三款 他ノ裁判事件ニ關スル送達

刑事訴訟法第十九條ハ書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スト規定セリ即チ刑事事件ニ付執達吏カ送達ヲ施行スルトキハ前款ニ述ヘタル民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ從フヘキ事勿論ナリ  
刑事訴訟法執達吏カ送達ヲナスヘキ書類ハ呼出狀及召喚狀ノ二類ナリ而シテ呼出狀ニ付テハ證人鑑定人呼出ノ場合ノ呼出狀第一一五條第一三六條及七十七條告人呼出ノ場合ノ呼出狀第二一三條以下ノ二種アリ又召喚狀ニ付テハ第七十六條三項ノ規定ヲ設ク此場合ニモ尚ホ公力ヲ用キス執達吏ヲシテ送達セシムル總テ此等ノ場合ノ送達手續ハ民事事件ニ關スル送達手續ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ再ヒ説明スルノ要ナシ  
刑事事件ニ關スル送達ヲ囚人ニ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ其書類刑事訴訟法第八十四條ノ規定ニ於ケル勾留狀ヲ含ムテ該監獄署ノ吏員ノ立會ヲ受ク本人ニ送達セサルヘカラス若シ本人呼出ニ關スルトキハ其期日ニ從テ送スヘキコト

ヲ右吏員ニ通知スヘキナリ又右ノ場合ニ於テ本人カ直チニ其書類ヲ聽カシコトヲ求メタルトキハ執達吏ハ之ヲ讀聞テ其ハカラス而シテ執達吏カ送達ハ關シ四人ト交通ヲナスニ付テハ總テ監獄則ノ規定ニ違背セザルコトヲ要ス刑事訴訟事件ニ關スル送達ハ裁判所又ハ檢事ノ命令ニ依ル送達ニシテ執達吏ハ職務ノ執行トシテ之ヲ爲スモノナレハ之ニ對シテ手数料ヲ受タルノ權ナキヤ勿論ナリト雖モ送達ノ爲メニ要セシ旅費ハ立替金トシテ三箇月毎ニ計算確定シテ之ヲ國庫ヨリ受タルノ權ヲ有シ然レトモ刑事事件ニ附帶スル私訴ニ關スル書類ノ送達ニ關シテハ普通民事事件ニ關スル送達ノ場合ト同シテ當事者ノ委任ニ基テ送達ナルヲ以テ之ニ對シテ手数料ヲ受クヘキヤ勿論ナリ而シテ非訟事件其他凡テノ裁判ニ關スル事件ニ付執達吏カ送達ヲナス場合ニ於テモ亦民事事件ニ關スル規定ニ倣フヘキナリ送達事件ニ付執達吏カ送達ヲナス非訟事件ニ關シテハ執達吏ハ主トシテ呼出狀ノ送達及ビ決定謄本ノ送達等ヲ司ルモノナリ而シテ此種ノ書類ノ送達ニ付テハ手数料及旅費ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ヨリ直接ニ受クヘキモノトス但檢事カ

報 紙

○同縣内ノ甲市ニ於テ縣會議員ノ被選舉資格ヲ有スル者ノ乙市ニ於ケル被選舉資格 同縣内ノ甲市ニ居住シ同市ノ公民トシテ縣會議員タル被選舉資格ヲ有スル者カ他市ニ於テモ亦被選舉權ヲ有スヘキカ此問題ニ付キ行政裁判所ハ明治三十六年第五百三十六號縣會議員當選效力ニ關スル訴訟事件ニ付キ積極的ノ判決ヲ下セラリ(明治三十七年三月二日) 競買ニ因リテ裁判所カ受領シタル金銭ニ對スル請求權 競買法ニ依リ競買ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ競買代價ヲ受領シタルトキハ裁判所ハ其代價中ヨリ競買費用ヲ控除シタル殘金ヲ速ニ之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要スルモノトス競買法第三三條然ルニ若シ裁判所カ之ヲ交付セザルトキハ之ヲ司法裁判所ニ訴ヘテ其交付ヲ請求スルコトヲ得ヘキカ原院名古屋控訴院ハ積極的斷定ヲ與ヘタルニ大審院ハ右ハ公法上ノ手續ニ屬スルモノナルヲ以テ司法裁判所ニ於テ管轄スヘキモノニ非ストセリ其理由曰ク抑國家ハ其機

關ノ爲シタル民法上ノ法律行爲ニ因リ民法上ノ義務ヲ負擔スルモノナキ其非  
 タルモ其機關カ公法上ノ手續ヲ執行スルモ之カ爲メニ民法上ノ義務ヲ負擔セ  
 タルヲ以テ原則トス例ヘハ國家ノ機關タル裁判所カ銀行ニ金銀ヲ寄託シ又ハ  
 建築師ニ廳舎ノ建築ヲ請負ハシムルトキハ國家ハ此寄託又ハ請負ノ契約ニ因  
 リ民法上ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フヘキハ勿論ナルモ裁判所カ訴訟ヲ裁斷シ又  
 ハ強制執行ヲ爲スニ當リ當事者ヨリ證據物トシテ金品ヲ受領シ又ハ不動産  
 賣代金ヲ受領スルトキハ國家ト當事者トノ間ニ公法上ノ關係ヲ生スヘキモ民  
 法上ノ權利關係ヲ生スルモノニ非ヌ何トナレハ此場合ニ於テ裁判所ハ國家ノ  
 司法機關トシテ公法上ノ手續ヲ執行スルカ爲メニ金品ヲ受領シタルモノニシ  
 テ民法上ノ法律行爲ニ因リテ之ヲ受領シタルニ非サレハナリ而シテ區裁判所  
 カ競賣法ニ從ヒ競賣手續ヲ執行スルハ全ク民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ手續  
 ヲ執行スルト同シテ國家ノ機關トシテ公法上ノ手續ヲ執行スルニ外ナラザレ  
 ハ區裁判所カ競賣法第三十三條第一項ノ規定ニ從ヒ競賣人ヨリ競賣代金ヲ受  
 領スルモ亦タ公法上ノ手續ヲ執行スルニ因ルモノニシテ決シテ競賣申立人ノ

委任ニ因リ若クハ債務者又ハ所有者ノ代理人タル資格ヲ以テ之ヲ受領スルモ  
 ノニ非ヌ隨テ此等ノ者若クハ此等ノ者ノ債權ハ競賣代金ニ付キ國家ニ對シ民  
 法上ノ債權ヲ有スルモノニ非ヌ今本訴ノ請求原因タル事實ヲ按ズルニ上告人  
 ハ訴外人藤田幸平ニ對シ金七千六圓餘ノ債權ヲ有シ而シテ幸平ハ訴外人村田  
 衆吉ニ對スル工事請負ノ債權ニ付キ豊橋區裁判所カ競賣法ニ從ヒ衆吉所有ノ  
 不動産ヲ競賣シタル代金ノ配當金二千六百九十圓餘ノ債權ヲ同區裁判所ニ對  
 シ有スルヲ以テ上告人ハ此債權ヲ差押ヘ且債權取立命令ヲ得テ之ヲ請求スル  
 モ同裁判所ハ其債務ヲ履行セザルヲ以テ本訴ノ請求ヲ爲スト云フニ在リテ本  
 訴ハ畢竟裁判所カ競賣法ノ手續ヲ執行シ競賣代金ヲ受領スルトキハ之ヲ受取  
 ルヘキ者ニ對シテ民法上ノ債務ヲ負擔スルコトヲ主張スルモノニシテ換言セ  
 ハ國家ノ機關タル裁判所カ競賣法ニ從ヒ競賣手續ヲ執行シ競賣代金ヲ受領ス  
 ルトキハ國家ハ之カ爲メニ民法上ノ債務ヲ負擔スルコトヲ以テ根據ト爲ス訴  
 訟タルコト洵ニ明白ナリ然レトモ前段說示スルカ如ク區裁判所カ競賣法ニ從  
 ヒ競賣代金ヲ受領スルモ國家ハ之カ爲メ民法上ノ債務ヲ負フモノニ非サレハ

本件ハ絶對ニ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ズシテ民事訴訟法ノ所關  
無訴權ノ場合ニ該當スルモノト謂ハサル可カラズ然ルニ原審力第一審ト共ニ  
本件ヲ以テ司法裁判ノ管轄ニ屬スヘキモノト爲シ本案ニ付キ裁判ヲ爲シタル  
ハ失當ナリトスト(大審院明治三十六年(三)第六百六十三號第一民事部判決)  
○催告ノ委任ト手形金額請求權ハ執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ催告ヲ爲ス  
コトヲ得ルハ執達吏規則第二條第一號ニ依リ明瞭ナル所ナルカ此規定ニ依リ  
手形金額支拂ノ催告ノ委任ヲ受ケタルトキハ手形金額受領ノ權限ヲモ有スル  
モノト解スヘキカ大審院ハ之ニ積極ノ斷定ヲ與ヘテ曰ク明治二十三年法律第  
五十一號執達吏規則第二條第一號ニ所謂催告ナル文詞中ニハ本件ノ如キ手形  
金支拂ノ請求ヲモ亦包含スルモノトス而シテ手形金ノ支拂ハ手形ヲ呈示シテ  
之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ其呈示ヲ爲スノ行爲ハ支拂ノ請求事項ト共ニ執  
達吏ノ受任權限内ニ屬スルモノト云ハサルヘカラスト(大審院明治三十七年  
七月四月二十六日)ノ判例ニ依リテハ催告ノ管轄ハ民事訴訟法ノ所關ナリ  
第一民事部判決)

# 法學志林

第五十七號  
六月十五日 定價 一月十五日發行  
發售 十冊前金郵稅共壹圓貳拾錢  
行 壹圓貳拾錢

●校友學生校外生ニ限リ特價一冊拾錢郵稅壹錢十冊前金郵稅共壹圓

- ◎ 志林
  - 法人ノ本質ヲ論ス
  - 歐洲地方ニ於ケル物權契約
  - 片約單獨ノ完全ニ對シテ軍隊ノ軍隊占領
  - 國際公法ノ基礎ヲ就テ(承認)得ルヤ否ヤ
  - 國際新手法(二)
  - 無盡講ノ性質及各講員間ノ法律關係
  - 官吏ノ將來ノ職務ニ對スル處分
  - 官廳ノ收賄ノ性質
  - 公用徵收ノ性質
- ◎ 纂論
  - 法學士 岡松參太郎
  - 法學士 松本蒸太郎
  - 法學士 秋山雅之介
  - 法學士 杉山直治郎
  - 法學士 秋山直治郎
  - 法學士 佐竹三吾
  - 法學士 横田秀雄
  - 法學士 谷野格
  - 法學士 上杉慎吉
- ◎ 解疑
  - 大審院新判決例三十四件
- ◎ 判例
  - 露國ノ通牒ニ對シテ新判決例
  - 市町村民ノ義務會費ノ負擔ニ付テ
  - 有賀氏停廢救恤協
- ◎ 雜報
  - 露國ノ通牒ニ對シテ新判決例
  - 市町村民ノ義務會費ノ負擔ニ付テ
  - 有賀氏停廢救恤協
- ◎ 記事
  - 博士ノ判例批評
  - 文官高等試驗委員會ノ懲戒訴訟
  - 東京辯論士會
  - 新法學博士
  - 外交官及
  - 梅博士ノ判例批評
  - 文官高等試驗委員會ノ懲戒訴訟
  - 東京辯論士會
  - 新法學博士
  - 外交官及

發行所 法政大學



明治三十七年六月三十日印刷  
明治三十七年七月二日發行  
(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地  
扶原敬之

印刷者 東京市牛込區矢野町三番地  
小宮山信好

印刷所 東京市芝區西ノ久保町會町十一番地  
金子活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 法政大學

(電話番町百七十四番)

明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可  
昭和十一年六月十一日、十五年六月一日、廿五日、廿六日發行